

不動産ノ遺囑

テハ死者最終ノ住居地ノ法律ヲ適用スヘキモノナリトセリ
英國ト合衆國トノ二國ニ在テハ不動産ノ遺囑ニ付キテハ其不
動産所在地ノ法律ニ從フヘキコトハ已ニ確定セル所ナリ故ニ
其遺囑證書ノ法式ニ關シテモ亦タ不動産所在地ノ法律ニ從フ
ヘキモノトス

遺囑證書取消
方法

近代ノ羅馬法ニヨレハ遺囑證書ハ住居地ノ法律又ハ訴訟地ノ
法律孰レニテモ其一ノ法律ニ適合スルトキハ有効ナリトセリ
遺囑證書ヲ取消ス方法ニ付キテハ總テ其遺囑證書成立ニ關ス
ル所ノ規則ト同一ナリトス

第六章 遺囑證書ノ解釋

第一 言詞解釋

凡ノ遺囑證書中ノ文詞ヲ解釋スルニハ其遺囑者最終ノ住居地

言詞ノ解釋

ノ法律ニヨリテ解釋スルヲ以テ一般ノ原則ナリトス此點ニ付
キ米國ニ有名ナル一事件アリ今其事件ノ要領ヲ示サンニ其爭
點トスル所ハ證書中ニ遺囑者ハ法律上ノ相續人ニ動産ノ遺囑
ヲ爲ス旨ヲ記載シタル場合ニ於テ法律上ノ相續人ナル文詞ハ
如何ナル意味ヲ有スルカヲ決スルニアリ米國ノ上等法院ハ此
疑點ニ答ヘテ遺囑者ノ住居地ノ法律ニ從フテ之レヲ解釋ヲ爲
サ、ル可ラスト判決シタリ故ニ若シ遺囑者カ英國ニ住居中死
去シタルトキ右法律上ノ相續人トハ其長子ヲ意味スルモノト
解釋スベク又佛國ノ如ク平等分配ノ主義ヲ採用スルノ國ニ於
テ住居中死去シタルトキハ其詞タル遺囑者ノ子女ハ總テ包含
シタルモノト解釋セサル可ラス
右ノ如キ解釋法ニ付テハ遺囑者最終ノ住居地ノ法律ニ從フヘ
キモ其證明ノ具タル證據ノ許否ニ關スル規則ハ一ニ裁判所ノ

遺囑證書ニ用
ニル通貨

特權ナルヲ以テ其之レヲ受理シタル裁判所々在在ノ法律ニ從
フヘキモノトス故ニ證書ノ解釋ハ遺囑者最終ノ住居地ノ法律
ニ從フトハ單ニ證書ヲ造リタル當時ニ使用セル文詞ノ解釋ニ
止マルヘキノミナリトス
又遺囑ヲ爲シテ贈與スル所ノ金錢ハ何レノ通貨ヲ用ユヘキヤ
ト云フニ是亦タ遺囑者ノ最終ノ住居地ノ法律ニ從フヘシ即チ
英國ニ於テハ英貨ナルコトヲ要シ日本ニ於テハ日本ノ通貨ニ
テ爲サ、ル可ラス
外國ニ於テ爲リタル證書ヲ解釋スルニハ反對ノ證アラサル限
リハ其外國ノ法律ハ內國ノ法律ト同シキモノト推測スルモノ
トス

遺囑證書中ニ
格段ナル記載
事項

第二 遺囑證書中ニ記載セシ格段ナル條項ノ効力
格段ナル條項トハ例之ハ相續權ヲ剝奪スルカ或ハ指定權ヲ創

相續ニ關スル
契約

設スルカ如キ條項ノ効力ヲ指スモノトス此點ニ付キテモ原則
トスル所ハ死者最終ノ住居地ノ法律ヲ適用シテ處分スルモノ
トス然レモ若シ遺囑ヲ執行スルニ當リ外國ノ裁判所ノ執行力
ヲ借ルノ必要ヲ生シタル場合ニ於テ其裁判所々在ノ地ニ格段
ナル制限法アルトキハ亦タ之レニ從ハサル可ラス

第七章 相續ニ關スル契約

相續ニ關スル契約トハ自己ガ死去シタルトキハ何某ニ遺囑ス
ヘキコトヲ約シタルカ如キ場合ヲ云フ斯ノ如キ契約ハ羅馬法
ニテハ之レヲ認メサルモ英米ニハ間々其實例ヲ見ル所ナリ此
問題ニ付キテハ如何ニ之レヲ處分スルカト云フニ即チ其契約
者ノ一方ガ死去シタルトキハ其者ノ最終ノ住居地ノ法律ニヨ
リテ之レヲ定ムルナリ又契約者雙方ノ相互ニ或ル財産ヲ遺囑

セント契約シタル場合ニ於テモ亦タ契約者最終ノ住居地ノ法律ニ從フヘシ而シテ此ノ如キ場合ニハ第一ニ死去シタル者ヲ以テ普通ノ場合ニ於ケル遺囑者ト同様ニ看做シ其最終ノ住居地ノ法律ニ從テ其契約ノ處分ヲ爲スモノナリ尤モ此場合ハ動産ニ關シタル規則ニシテ不動産ノ場合ハ尙ホ其所在地ノ法律ニ從フヘキモノトス

第八章 信託

信託利益ヲ受タル所以

羅馬法ニヨレハ信託ヨリ生スル利益ハ相續人ニ移轉スルコトナシ信託ノ利益ヲ受クル者英法ニテ云ヘハ信託利益者ヲ指示スノ利益ハ何ヨリ成立シタルカト云フニ他人ニ屬スル物ヨリ生スル利益ヲ領收スルヨリ成立スルモノナリ而シテ此權利ハ信託利益者ノ死去ト共ニ消滅スル者ナルカ故ニ其相續人ハ信

托者ニ對シテ請求スルコトヲ得サルナリ其理由ハ信託ノ利益ハ法律上ヨリ成立スルモノニ非ラスシテ被信託者ノ誠忠ヨリ成立スルモノナルヲ以テ性質上他ニ移轉セシムルコトヲ得サルモノトス

第九章 外國ノ遺産處分

外國ノ遺産管理
者ノ職ヲ行
ヒ得ル場合

第一 如何ナル場合ニ於テ外國ノ遺産管理人カ其職務ヲ行ヒ得ルヤ

英國ノ普通法ニヨルトキハ死者ノ動産ハ如何ナル場合ニ於ケルモ死者ノ負債償却ニ充テラル、モノトス又此遺産ノ所在地ノ裁判所ハ遺産管理人ヲ如何ニ看做スカト云フニ死者ノ遺産ヲ法律ノ規定スル方法ニヨリ之レヲ使用スルヤ否ヤヲ見ルノ責任ヲ委託シタル受托者ト認ムルナリ故ニ此遺産管理人ハ遺

漏又ハ無遺囑ヨリ成立シタルモノナルモ相續ノコトニ付キテ
 ハ全ク之レニ關係スルコトヲ得サルナリ然レモ其遺産管理人
 ナル者ハ死者ノ遺囑證書ヲ證明シタルカ或ハ管理スルノ許可
 ナ受ケタルカ如キ手續ヲ盡シタルトキハ格別ナリト雖モ若シ
 否ラサルニ於テハ決シテ干涉スヘキモノニ非ス換言スレハ外
 國ノ遺産管理人ハ元ト死去シタル本人ノ最終ノ住居地ノ法律
 ニヨリテ其權利ヲ與ヘラレタルモノナルヲ以テ唯タ其法律ニ
 依リテ得タル權力ノミニテハ英國普通法ノ支配ヲ受クヘキ所
 ノ財産ノ所有權ヲ得ルコトヲ得サルナリ然レモ今日ニ在テハ一
 般遺産管理人ハ死者ノ最終ノ住居地ノ法律ニヨリ得タルノ職
 權ハ英米共ニ之ヲ認可スルヲ以テ其内地ニ屬スル遺産モ亦タ
 其職權ヲ及ボスコトヲ許スノ傾向アリ現ニ上院ニ於テ外國ニ
 住居ヲ有スル英國人カ其住居ニ於テ死去シ英國ニ動産ヲ遺シ

外國ノ管理人
 ニ對スル負債
 ノ償却

タルトキハ英國遺囑裁判所ハ外國ヨリ來リタル管理人ニ其遺
 産ヲ處分スルノ職權ヲ與ヘサル可ラスト判決シタルノ例ナキ
 ニ非ス米國ニ於テモ亦タ然リ
 凡ソ外國ノ管理人ハ外國ニ於テ訴訟ヲ受クルコトナキヲ以テ
 一般ノ原則トス然レモ若シ外國ニ到リテ遺産ヲ管理スルノ許
 可ヲ受ケテ其職ヲ盡スルハ其ノ財産ニ關シテ訴訟ヲ受クルコ
 トアルヘシ例ヘハ米國人カ日本ニ在ル遺産ノ管理人トナリタ
 ルトキ其遺産ニ關シテハ日本ニ在テ訴訟ヲ受ケサルヘカラス
 第二外國ノ管理人ニ對スル負債ノ償却
 此管理人ノ權利ハ治外法權ノ効ナシ故ニ元來外國ニ到リテ假
 令ヒ死者ノ遺産ナルモ其政府ノ許可ヲ受ケサル以上ハ其財産
 ナ取り立ツルコトヲ得ス而シテ若シ負債者カ其管理人ニ之レ
 ナ支拂フタルトキハ其効力ハ如何即チ此場合ニ於テハ死者ニ

住居地ト外國
ト遺産管理ノ
抵觸

對スル負債ヲ仕拂フタル充分ノ効力アリトスルヤ又ハ相續人ヨリ之レヲ請求シタルトキハ再ビ其支拂ヲ爲サ、ル可ラサルモノナルヤ否ト云フニ英國ノ法律ニヨレハ第一ノ管理人ニ支拂ヲ爲シタルモ之レヲ理由トシテ第二ノ訴訟ヲ避クルコトヲ得サルモノトス

合衆國ニ行ハル、規則ヲ觀ルニ外國ノ管理人ノミニシテ内國ニ管理人ヲ撰ハサルトキハ其外國ノ管理人ニ對シ爲シタル支拂ハ一般有効ナリトスル傾向アリ

第三 住居地ノ遺産管理ト外國ニ於ケル遺産管理トノ抵觸

遺産管理ノ職務ハ即チ死者ノ住居地ニ於テ行フヲ以テ本体トス故ニ外國ニ於テ行フコトハ第二ニ屬スルモノナリ但シ此二個ノ種類ノ遺産管理ニ付キ左ノ場合ハ相互ニ獨立スルモノトス

甲 外國ニ於テ外國ノ遺産管理ニ付テ受ケタル所ノ裁判ハ住居地ノ管理ニ對シテ判決ノ効力ナキモノナリ

乙 管理人中ノ一人ニ對シテ受ケタル所ノ裁判言渡ヲ以テ他國ニ於テ他ノ管理人ニ對シテ訴訟スルノ理由トスルコトヲ得ス

丙 一ノ國ニ於テ一ノ管理人カ受ケタル所ノ裁判ハ他國ニ於テ地ノ管理人カ起スヘキ訴訟ノ理由ト爲スコトヲ得ス

丁 外國ノ遺産管理人ハ唯タ其許可ヲ受ケタル所ノ場所ノ外其義務ヲ執行スルコトヲ得ス又其額ハ命令書記載ノ額ニ超過スルコトヲ得ス

戊 住居地ト財產所在地ノ法律ト支拂ノ先取ニ付キ抵觸スル場合ニ於テハ財產所在地ノ法律ヲ以テ之レヲ處分スルモノトス

已 以上述タル所ノ國際上ノ規則ハ合衆國ノ各州間ニモ亦之
レヲ通用ス

第五編 義務及ヒ契約

第一章 緒論

國際法上ニ義務ヲ論スルハ甚タ必要ナル問題ナリト雖モ其義務ノ所在ヲ確ムルコト實ニ困難ナリトス

國際法上義務ノ所在ヲ知ルノ困難

前編已ニ論シタル人權ノ事ニ付キテハ多少ノ困難ヲ感スルナキニ非サルモ其之レヲ論スルヤ即チ有形ノ人ニ依據シテ論スルコトヲ得ルカ故ニ其標準ト爲スヘキモノナキニ非ス即チ其人ノ住居地ノ法律ニ從フトノ原則ヲ確定スルコトヲ得ヘシ又財產ニ付キテモ動産不動産ノ別アリト雖モ二者共ニ多クハ有形物ナルヲ以テ其所在ヲ定ムルニ付キ甚シキ困難ヲ感スルコトナシ故ニ此ノ場合ニ於テモ亦其所在地ヲ標準トナスコトヲ得ヘシ然レモ義務ニ至テハ只タ法律上ノ關係ニ過キサレハ其所在ヲ定ムルニ至テハ一大難事ト云ハサルヲ得ス夫レ義務ハ手

以テ觸ル、可ラス眼以テ視ル能ハス唯タ法律上ノ思想ニ依テ存在スルモノナルカ故ニ其二人以上ノ關係ニ於テ義務ノ所在ノ何レナルヤノ問題ヲ生スルトキハ此問題ニ對シテ一刀兩斷ノ答ヲ爲シ得サルハ勿論深慮熟考スルモ適當ノ斷定ヲ下スコト甚タ困難ナルモノ其數一ニシテ足ラサル所ナリトス

今日交通ノ頻繁ナリシヨリ商業上ノ取引益々其多キヲ加ヘ從テ義務ノ關係益々錯綜シ又商業取引上ノ多數ハ廣ク各地方ニ關係ヲ有スルコト少カラス夫レ此ノ如ク關係ノ夥多ナルニ從ヒ其義務ノ所在ヲ定ムルコト愈々困難ヲ感スヘキモノトス

今旅行人ニ付キ法律上ノ關係ヲ觀察センカ身ハ各地ニ轉輾旅行スルモ其人ノ族籍ハ其旅行ニ隨從シテ輾轉スルモノニ非ス必ス或ル一定ノ場所ヲ有スルヲ以テ之レヲ判定スルニ甚シキ困難ヲ生スルコトナキモ義務ニ在ツテハ有形的ノ場所ナキカ

商業上ノ取引
頻繁トナリテ
義務ノ所在益
々分明ナラ
ズ

義務者ノ位置
ヲ標準トスル
說

故ニ義務者其國ヲ異ニスルトキハ何レノ國ノ法律ニヨリテ其所在ヲ判定スルヤノ問題ヲ生スヘシ

今性質上ヨリ云ヘハ義務ハ全ク不定ノモノニシテ一地方ニ定メ得ヘキモノニ非ス故ニ先ツ義務ノ位置ヲ定メ次ニ其義務ノ關係ヲ知ラント欲スルモ之レヲ講究スルニ當リ漠トシテ岐路ニ彷徨スルノ感ナキ能ハス

先ツ第壹ニ義務者ノ位地ヲ標準トナシ講步ノ端緒ト爲スヘシ凡ソ義務ニハ二人以上ノ關係アルヘキハ論ヲ俟タス而シテ此關係タル其一方即チ權利者ヨリ云ヘハ其所爲ノ範圍ヲ廣大ナラシムルモノニシテ他ノ一方即チ義務者ヨリ云ヘハ其義務者ノ行爲ノ範圍ヲ狹少ニスルモノナリ又之レヲ雙方ヨリ云ヘハ義務者ハ即チ義務ノ一定場所ヲ示スヘキモノト云フモ不當ノ言ニ非サルヘシ何トナレハ義務者ハ自ラ進ンテ其義務ヲ盡サハ

ル可ラス之レニ反シテ權利者ハ受ケ身ニシテ義務者ヨリ盡ス
 所ノ義務ヲ受クルノミナレハナリ故ニ先ツ之レヲ標準トシテ
 論スルトキハ義務者ノ住居地ノ法律ハ義務ノ關係ニ付キ適用
 スヘキ標準ト定ムルコトヲ得ヘシ然ルニ訴訟ヲ提起スルニ當
 リテハ義務者ノ住居地ノ裁判所ニ訴フルコトアリ又義務履行
 地ノ裁判所ニ訴フルコトアリ此裁判管轄ニ付キテハ國々ニ於
 テ特ニ之レヲ規定スル所アリ
 右ノ如ク義務ノ履行地モ亦タ關係ヲ有スルモノナレハ右二者
 ナ標準トシテ其理ヲ探究セハ零ホ義務ノ所在ヲ知ルニ庶幾ラ
 シ耶

第二章 契約ノ性質ヲ定ムルニ付キ契約履行地ノ効
 果

契約ノ性質ハ
 起約地ノ法律
 ニヨルベキカ
 履行地ノ法律
 ニヨルベキカ
 契約地ハ重要
 ナラズ

契約ノ性質ヲ定ムルコトニ付キ二個ノ疑問ヲ生ス第一義務ノ
 場所ハ起約地ノ法律ニ依リテ其性質ヲ定メサル可ラサルカ第
 二其契約ノ性質ハ履行地ニ依リテ定メサル可ラサルカ
 サビグニ一氏ハ起約地カ重大ナル關係ヲ有スルモノニ非サル
 コトヲ論シテ曰ク起約地ハ其効力ニ付キ重大ノ影響ヲ及サス
 尤モ契約者自身カ特ニ起約地ノ法律ニ從フヘシト特約シタル
 トキハ格別ナリト雖モ一般ヨリ之レヲ云フトキハ起約地夫レ
 自身ハ重大ノ影響ヲ及サスト氏ノ論斯ノ如シト雖モ諸國ニ於
 テ現ニ行ハル、處ヲ視レハ履行地ガ契約ニ關係ヲ有スルコト
 決シテ尠少ニ非サルナリ元來義務者カ契約履行地ヲ定メサル
 トキハ多少ノ制限ヲ免レサルモ兎ニ角其義務者所在地ノ法律
 ニ從フモノナリト雖モ契約者雙方ニ於テ其履行地ヲ定メタル
 トキハ前ノ自由ヲ放棄シタルモノトシテ其意思ニ從ヒ之レヲ

ハール氏ノ義務ニ關係ヲ有スル法律

判定セサル可ラサレハ論ヲ俟タサルナリ
ハール氏ノ説ニ據レハ其義務ニ關係ヲ有スル法律ヲ舉クレハ
則チ第一訴訟地ノ法律第二起約地ノ法律第三履行地ノ法律第
四權利者住居地ノ法律第五義務者住居地ノ法律是ナリ
然リ而シテ其内何レノ法律ニ從フカヲ定ムルニハ右五箇ノ中
ヨリ探擇セサル可ラス其第一第二第四ハ深ク之レヲ論究スル
ノ價值ナキモ第三即チ履行地ノ法律ヲ適用スヘシトノ説ニ對
シハール氏ハ反對ノ説ヲ述テ曰ク履行地ハ結約者カ最終ノ目
的トスル所ニ相違ナキヲ以テ自ラ之レニ向ツテ雙方ノ意思ノ
焦点タルハ理ノ應ニ然ル可キ所ナリ左レハ對手人カ履行地ヲ
定メテ契約シタル所以ノモノハ畢竟其履行地ノ法律ニ據ルヘ
キ多少ノ意思アルヘキハ自然ノ結果ナリト雖モ未タ以テ完全
ナリト云フヘキモノニ非ス言ヲ換テ云ヘハ甲地ヲ契約履行ノ

地ト定ムルモ雙方ノ者ニ於テ其甲地ノ法律ヲ徹頭徹尾遵奉ス
ルノ意思ナリトハ假定スルヲ得ス何トナレハ一概ニ其場所ノ
法律ヲ知リテ互ニ契約シタルモノト認定スルヲ得サレハナリ
例ヘハ英米二國ノ者カ橫濱ニ於テ履行セント契約シタル場合
ニ當リ其兩人ハ日本ノ法律ニ從フヘシトノ意思ハ多少之レヲ
推測シ得ヘキモ其兩人ハ必スシモ日本ノ法律ヲ知了スルモノ
トハ速斷スルコト能ハサルヘシ然ラハ則チ知ラサル所ノ法律
ニ從フノ意思アリト強認スルハ其當ヲ得タルモノニ非ス又橫
濱ニ於テ履行セント約シナカラ其後ニ至リ上海ニ於テ履行セ
ントスルモ最初ノ契約ニヨリテ其義務ノ所在ヲ定メサル
可ラス若シ契約後ニ其履行地ヲ變更セントセハ從テ其契約自
體ニモ亦タ變更ヲ來サ、ル可ラサルノミナラス若シ契約ヲ
爲スノ始メニ於テ二箇以上ノ事ヲ契約シテ其履行地ヲ甲乙ノ

義務者ノ住地
ノ法律ニ從フ
理由

二個ニ定メタル片ハ又其中ノ何レノ法律ニ從フカノ議論ヲ惹
起シ其極遂ニ法律ノ適用ヲ知ル可ラサルニ至ルヘシト要スル
ニ氏ノ説タル第五義務者ノ住居地ノ法律ニ從フト云フニ在リ
而シテ其理由ニ二個アリ

義務者ハ義務
ノ中央

第一 義務者ハ先ツ義務ニ付テ一ノ中央ト見做スヘキモノナ
ルカ故ニ義務ノ關係ヲ定ムルニ其中央即チ義務者ヨリ法律上
ノ動作ヲ發現スルモノナリ加之ノミナラス一國ハ其國ノ臣民
ニ外國人ニ對シテ義務ヲ負フコトヲ許可スルコトアリト雖モ其
許可タル自國ノ法律ニ從フタル後ニ非サレハ不可ナリ即チ外
國ニ行キ取引スルハ自己ノ欲スルノマ、ナリト雖モ取引スル
ニ付キ自國ノ法律ヲ遵奉セスト云フカ如キハ決シテ許可スヘ
キモノニ非ス是則チ國ノ東西ヲ問ハス均シク一定不變ノ原則
トスル所ナリ而シテ此原則タルニ私人ノ合意上ニテ之レヲ遵

契約當時ノ意
思ハ義務者自
己ノ住居ノ法
律ニ從フニア
リ

クルコトヲ得サルハ各國其軌ヲ同セリ

第二 契約者雙方カ其契約ヲ締結スルトキニ當リ其意思ノ在
ル所ヲ察スレハ互ニ法律規則ヲ遵奉セサル可ラサルヲ了知
シ以テ契約ヲ締結スルニ外ナラス左レハ義務者カ負フ所ノ義
務ニ付キ何レノ法律ヲ遵奉セント覺悟セシヤト云フニ自己ノ
住居地ノ法律ヲ念頭ニ置キシモノト認ムルハ實ニ至當ノコトナ
ルヘシ即チ義務者ノ承諾ハ吾人カ遵奉スル所ノ法律ヲ意中ニ
挾ミテ爲シタルモノナレハ之レヲ處分スルニ付キテモ亦タ此
點ニ注意セサル可ラス是レ即チ其性質ヲ定ムルニ義務者ノ住
居地ノ法律ニ依ラサル可ラスト爲ス所以ナリ

レーンホルトシミット氏曰ク左ニ述ル二個ノ論點ニ付キテハ異
論ナキ所ナリ其二個ノ論點トハ即チ

第一 義務ノ成立ニ關シテ之レヲ云フトキハ起約地ハ取引ノ

履行地又ハ訴訟地ノ變更ニ伴ヒ書式ヲ變スルノ不便

履行ノ爲ニ目的物授與ノ法式ハ場所ノ法律ニ從フ

書式ニ關シテ最モ重大ノ關係ヲ有スルモノタルハ疑ナキ所ナリ故ニ若シ一ノ取引カ其取引アリタル場所ニ於テ已ニ有効ナレハ何レニ至ルモ其効アルハ何人ト雖モ疑ヲ容レサル所ナリ是皆ニ理論上ノミナラス萬國ノ交際ヲ圓滑ナラシムルニ實際ノ必要ヲ感スル所ナリ何トナレハ若シ履行地又ハ訴訟地ノ變更スル毎ニ其書式等ヲ變更セサル可ラストセハ其關係人ハ何レノ地ノ法律ニ從フ可キヤ之レヲ了知スルニ苦ムベケレハナリ」
第二 契約ノ履行カ品物交付ノ授受ヨリ成立スルモノナルトキハ其授受ノ法式ノ如キハ何レニ至ルモ其場所ノ法律ニ從フヘキモノタルハ論ヲ俟タス
右二個ノ點ハ數多ノ學者カ是認スル所ニシテ實際異論ナキ所ナリ此二點ノ規則ハ國際上ノ取引ノ必要其他萬已ムヲ得サルノ外ハ之レヲ變更スルコト能ハサルナリ其變更シ得ヘキ場合

現今多數學者ノ一致スル説

契約ノ書式

解釋

履行ノ方法

訴訟手續

トハ外交上甚シキ不都合アルトキノ如キ是ナリト
以上ニテ重モナル學者ノ説ヲ述タレトモ此等ノ説タル元來現今多數學者ノ説ニハ符合セサルモノニシテ以下述ントスル所ノ規則ハ多數學者ノ一致唱道スル所ナリ
第一 契約ノ書式ニ付キテハ契約ヲ締結シタル場所ノ法律ニヨリ其適否ヲ定ムヘシ
第二 契約ノ解釋ニ付キテハ起約地ノ法律ニ從フヘシ
第三 契約履行ノ方法ハ契約履行地ノ法律ニ從フヘシ
第四 訴訟手續ニ關スルコトハ凡テ訴訟地ノ法律ニ從フヘシ
今例ヲ以テ右四個ノ規則ヲ説明センニ甲乙ノ兩人英國ニ於テ實買契約ヲ爲シ獨逸ニテ其契約ヲ履行スヘキモノトナストキハ其契約法式ノ適否ハ英國法ニ依ラサル可ラス又英國ニ於テ契約ヲ締結シタルトキハ其文字ノ解釋ハ亦タ同法ニ從フヘシ

履行地ノ確定
不動

然レモ契約履行ノ正當ナリシヤ否ヤハ獨逸法ニヨリテ定メサル可ラス若シ其契約ニ付キ佛國裁判所ニ訴訟ヲ提起シタルトキハ訴訟手續其他助法ニ關スルコトハ凡テ佛國法ニ從フヘキモノトス
履行地ヲ契約中ニ明定シタル場合ハ之レヲ論スルノ必要ナシト雖モ若シ之レヲ明定セサルトキハ法律ヲ以テ之レヲ推定セサル可ラス例ヘハ不動産ヲ抵當トナシテ契約ヲ締結シタル場合ノ如キハ其不動産所在ノ地ヲ以テ契約履行ノ地ト推測スヘシ又甲國ノ人民乙國ノ鐵道ノ株主ニ加入センカ爲メ其募集ニ應シタルトキハ乙國ヲ以テ履行ノ地ト爲スヘシ凡ソ契約履行ノ地ヲ定ムルニ付キ履行地ノ必然動ス可ラサルモノト變動不定ナルモノトノ別アリ履行地ノ動ス可ラサルモノトハ土地ノ賣買若シハ不動産ニ勞力ヲ加フル契約等ノ如キモノ是ナリ

履行地ノ變動
不常

右等ノ契約ハ其不動産所在地ニ於テ履行スルノ外別ニ履行スヘキ所ナキモノナリ第二履行地ノ變動定マリナキ場合トハ動産ニ勞力ヲ加フルノ契約ニシテ其動産甲地ヨリ乙地ニ移轉スルモノ又ハ金錢仕拂契約ノ類ニシテ義務者ハ何時ニテモ他ノ義務者ヲシテ已レニ代ハラシムルカ如キ場合ヲ云フ
是レヨリ一個獨立ノ場合即チ他ノ所爲ニ關係ナク一事ヲ爲セハ直ニ其局ヲ結フカ如キ場合ニ付其履行地ノ何レナルヤヲ定ムル推測法ヲ説カントス

甲 吾人カ自己ノ住居ニ於テ義務ヲ負擔スル場合

通常其契約中ニ明定スルコトナケレハ義務者ハ自己ノ住居地ニ於テ其義務ヲ負フモノトス即チ負債主東京ニ在リテ神奈川ナル乙ヨリ金ヲ借りタルトキハ其支拂ノ場所ハ東京ト推測スルカ如シ

履行地ヲ定ムル法
自己ノ住居ニ於テ義務負擔

自己ノ住地外ニ於テ義務ヲ擔

乙 義務者自己ノ住居外ニ義務ヲ負擔シタルモノト見ル場合此場合ハ甲ノ例外トモ云フヘキモノニシテ即チ舉動又ハ所爲ノ性質ヨリシテ自己ノ住居外ニ於テ契約ヲ履行スヘキモノト見做ス場合ナリ例ヘハ温泉場等ニ旅行スルモノ其場所ニ於テ日用品ヲ買入ル、トキハ其代價ノ支拂ハ其地ニ於テ爲スヘキモノニシテ自己ノ住居地ニテ支拂フヘキモノニ非ス又旅商人ノ如キハ其旅行先キニテ取結ヒタル契約ハ他ニ反對ノ證據アルニ非サレハ其旅行先キニ於テ履行スヘキモノニシテ自己ノ住居地ニ於テ支拂フヘキモノニ非ラストス

適用スヘキ法律ヲ推測スル

サビクニ一氏ノ規則

第三章 適用スヘキ法律ヲ推測スヘキ爲メノ特別ノ情況
サビクニ一氏ハ適用スヘキ法律ヲ推測スルカ爲左ノ規則ヲ掲

ケタリ

契約ヲ以テ履行地ヲ定メシ

甲 契約ヲ以テ其履行地ヲ明示シタルトキハ其場所ニ於テ適用スヘキ法律ヲ定ム

定マリタル營業場ヲ有スル者

乙 定マリタル營業ノ場所ヲ有スル者ハ其營業ニ關シタル契約ハ凡テ其營業ノ場所ノ法律ヲ適用ス

以上ノ外ノ場合

丙 以上ノ場合ニ非サルトキハ凡テ義務者ノ住居地ノ法律ヲ適用ス又假令ヒ義務者カ其契約締結ノ後住居ヲ移ストモ契約ヲ締結シタル當時ノ住居地ノ法律ヲ適用スヘシ
義務者住居地外ニ於テ即チ義務者假住居ノ場合ニ其假住居ニ於テ盡スヘキモノト推測スヘキモノナルトキハ假住居地ノ法律ヲ適用ス

外國裁判所ニ於テ法ノ適用ヲ誤リタル時

丁 適用ス可キ法律ヲ外國ノ裁判所カ其適用ヲ誤マリタルトキハ其誤リタル國ノ裁判所ニ於テ之レヲ修正スルコトヲ得

適用スヘキ法律
ト訴フベキ
裁判所ノ別

ヘシ

以上ニ述ヘタルカ如ク適用ス可キ法律ト訴フヘキ裁判所トハ
混同誤解ス可ラス羅馬法ニ於テハ原告人カ訴訟ヲ起スニ付キ
格段ナル管轄裁判所ニ制限アリテ敢テ自己ノ望ミニ任シ撰擇
ノ權ナカリシナリ然レ今日英米法ノ規則ニヨレハ被告人所在
ノ地又ハ財産所在ノ地ニ於テ原告人ノ望ミニ任セ訴訟ヲ起ス
コトヲ得ヘシ尤モ訴訟ノ管轄ヲ撰フニハ大ニ原告ニ利益アリ
ト雖レ之レヲ以テ訴訟ノ審判ヲ受クヘキ格段ナル法律ニ付キ
撰擇ノ權利アリト思惟ス可ラス即チ何レノ裁判所ニ訴フルモ
可ナレレ適用スヘキ法律ハ常ニ變更スルモノニ非ス若シ各地
方ノ法律ニシテ互ニ相ヒ矛盾スル場合ニ於テハ契約又ハ取引
ヲ有効ナラシムルノ法律ヲ適用スヘキモノトス
契約證書ニ適用ス可キ地方ノ法律カ甚タ明確ナルカ又ハ例外

等ノ場合ナキ時ハ何レノ裁判所モ其法律ヲ適用ス可シ且ツ其
適用ス可キ法律ノ行ハル、國ニ於テ格段ナル解釋法ヲ設ケタ
ルトキニ於テモ亦タ同シ

第四章 詞ノ曖昧

詞ノ曖昧ノ二
種

詞ノ字句ノ曖
昧ハ起卿者ノ
不利益

詞ノ曖昧ヲ區別シテ二種トス即チ第一詞夫レ自ラガ曖昧ニシ
テ適用ス可ラサルモノ第二詞自ラハ明瞭ナリト雖レ其適用ス
ルニ當テ疑ヲ生スルモノ是ナリ羅馬法ニヨレハ第一種ノ詞ノ
曖昧ハ其詞ヲ使用シタル者ノ不利益ニ解釋スヘシ而シテ其理
由トスル所ヲ見ルニ詞ヲ使用シタル者ニ於テ不注意アルカ又
ハ不正ノ心底アルヲ以テ爲メニ曖昧ヲ來シタル者ナレハ其責
ハ專ラ其詞ヲ使用シタルモノニ歸セシムヘシ若シ其責ヲ免レ
ント欲セハ宜シク其詞ヲ用ユル時ニ際シ相當ノ注意ヲ用ユル

ニ於テハ之ヲ免カル、コト敢テ難キニ非サレハナリト
右ト同一ノ法理ハ英國ニ於テモ行ハル、モノナリ即チ英國解
釋法ノ原則ニヨレハ外面ノ詞ノ曖昧ハ筆記者ノ不利益ニ解釋
スヘシト

字句ハ明瞭ナ
ルモ適用ノ困
難ナルハ他ニ
證據ヲ求ムル
ヲ要ス

然レモ第二種ノ詞ノ曖昧ハ筆記者ノ不利益ニ解釋スヘシト
原則ヲ適用スルヲ得ス即チ此ノ如キ詞ノ曖昧ヲ適用ノ曖昧ト
稱シ他ニ證據ヲ求メテ其旨意ノ在ル所ヲ探知セサルヲ得サル
モノトセリ若シ契約ヲ結ヒタル場所カ雙方對手人ノ住居ノ地
ナルルハ詞ノ曖昧ハ其地方ノ意味ニ解釋スルヲ要ス然レモ若
シ對手人ノ一方カ外國人ナルルハ其者ハ地方ノ習慣上ノ意味
ヲ知り居リシヤ又ハ其地方習慣上ノ意味ニテ其詞ヲ使用シタ
リヤ否ヤヲ探知スヘシ然レモ何レノ場合ニ於テモ一般ノ摸樣
ヨリシテ對手人カ眞ニ意味シタルモノナラント見認ムヘキ意

味ニ解釋スルヲ要ス

佛國民法第千五百五十九條ニ依レハ契約ハ其契約ヲ結ヒタル地
ノ意味ニヨリテ解釋スヘキモノト規定セリ然レモ何レノ場合
ト雖モ此原則ヲ適用スルコトヲ得サルナリ何トナレハ契約ノ
對手人ニ於テ契約ヲ結ヒタル地ノ習慣ヲ知ラス又之レニ依ル
コトナクシテ平常慣行ノ意味ニ用ユルコトアレハナリ要スル
ニ何レノ場合ニ於ケルモ到底一樣ノ原則ニ依テ處分スルコト
ヲ要ス唯タ判事ノ見込ニ任スルヲ最良ノ方法ナリトス殊ニ商
業上ノ契約ハ各地方ニ跨カルコト多キヲ以テ必ス一方ノ習慣
ニノミ拘泥スルコト能ハサルモノアリ

第五章 契約ノ効果

第一 契約履行

契約履行

凡テ契約ノ履行ヲ要求シ得ルト否トハ契約履行地ノ法律ニヨルヘキモノトス尤モ對手人ノ合意上特ニ條項ヲ加ヘタルトキハ格別ナリトス

取消及停止

第二 取消及ヒ停止

歐洲中或國ニ依レハ不動産ノ賣主未タ買主ニ不動産ノ占有ヲ引渡サハル間ハ或場合ニ限り賣主ハ其契約ヲ取消シ得ルノ權アルモノト規定セシモノアリサビクニ一氏ハ是等ノ法律ノ行ハルハト否トハ其不動産所在地ノ法律ニ於テ規定セシヤ否ヤニヨリテ確定スヘキモノナリト説ケリ又停止ニ關スル法律規則ハ訴訟手續ノ一部分ナルヲ以テ訴訟ヲ受理セシ裁判所々在地ノ法律ヲ以テ之レヲ論決スヘシ

利息

第三 利息

契約上特ニ利息ヲ定メタル場合ハ論ヲ待タサルモ若シ之レヲ

定メサルトキニ於テ其利息ハ何レノ國ノ法律ニ依リテ計算スヘキヤト云フニサビクニ一氏ノ説ニヨレハ契約履行ノ法ニ依ルヘキモノトセリ然レモ契約履行ノ地ハ其目的ニ依リテ時ニ變更スヘキ場合ナキニ非サレハ一ニサビクニ一氏ノ説ニ從フヲ得ス佛國并ニ獨逸學者ノ説ク所ヲ見ルニ利息ハ三種ニ區別セリ

利息ノ三種

甲 明定又ハ推定ノ利息

甲 明定又ハ推定ヲ以テ契約上定メタル利息

乙 損害賠償トシテ與ヘラレタル利息即チ契約ノ不履行ヨリ生スル場合

丙 契約ノ履行ヲ遲滞セシムルヨリ生スル利息

以下順次ニ之レヲ説カン

(甲) 第壹種ノ利息ニ關シテハ英米學者ノ説ク所ニヨレハ此種ノ利息ハ契約ヲ行フ地ノ法律ニヨリテ支配セラル、モノトス

故ニ甲ノ地ニ於テ利息制限法ニ觸レサル利息ト雖モ乙ノ地ニ履行地トシテ其乙地ニ於テ行ハル、所ノ利息制限法ニ觸ル、トキハ利息ノ契約ハ請求スルコト能ハサルモノトス夫レ斯ノ如ク英米學者間利息ハ契約履行地ノ法律ニ從フヘキモノトセルハ已ニ一定セルモ契約履行地トハ何レノ場所ヲ指示スルカ或ル學者ノ説ニヨレハ利息契約ノ履行地トハ即チ支拂地ヲ指シタルモノナリト然レモ支拂地ハ往々一時ノ便利ニヨリ定ムルコトアレハ其地ノ法律ニヨリ直ニ無効トスルトキハ無効ノ債主ニ對シテ苛酷ニ失スルノ嫌アルヲ以テ此説ハ其法トシテ採ルヘキモノニ非サルヘシ又或ル説ニヨレハ契約證書中ニ支拂ノ場所ヲ明記セサルハ裁判所ハ權利者ノ住居地ヲ以テ其履行地ト認ムヘシト然レモ若シ此説ニ行ハレシメシニハ權利者ハ唯タ權利者ノ住居地ニ於テ受取ルヘキ丈ケノ

利息ノミナラサル可ラス故ニ或ル場合ニ於テ他ノ場所即チ利息ノ高キ所ノ者ニ貸スコトアルモ其權利者タル自己住居地ノ利息法ニ制セラレテ他ノ場所ノ高キ利息ヲ受領スルコト能ハサル不幸ヲ見ルニ至ラン

二個ノ法律抵觸スル場合ニ有効トスル法律ニ依テスル説

茲ニ探ル可キノ説ハサビグニト氏ノ説ニシテパーソン氏之レヲ賛成セリ若シ一個ノ契約ニ付キ二個ノ法律相抵觸スルトキハ有効トスル所ノ法律ニ從ヒ處分セサル可ラスト元來一地方ノ法律ヲ適用セントスルハ對手人間ノ承諾上ヨリ成立スルモノナリ左レハ對手人ガ契約ヲ締結スルニ當リ無効ト爲ルヘキコトヲ覺悟シテ契約シタリトハ握測ス可ラサレバナリ尤モ此事ニ付キテモ多少ノ議論ナキニ非サルヘシ
茲ニ又正當ナル規則アリ即チ一個ノ契約履行地ハ其金錢ヲ使用スルノ地ヲ指示スルモノナリ例ヲ擧グレハ東京ニ土地ヲ買

フカ如キ爲メニ金ヲ借ルノ契約ヲ爲シタルトキハ東京ニ行ハル、利息ヲ以テ之レカ計算ヲ爲スヘキモノ是ナリ

(乙) ストレー氏ノ説ニヨレハ契約ヲ履行スヘキ地ノ法律ヲ適用スヘキモノト云ヘリ然レトモデマンチエー氏其他ノ學者ノ説ニヨレハ此種ノ利息ニ付キテハ訴訟地ノ法律ニ依テ處分スヘキモノト云ヘリ

(丙) 此場合ニ於テハ英米學者ハ通常乙ノ場合ト區別ヲ爲サスシテ何レノ負債ニテモ凡テ訴訟地ノ法律ニ依ルヘキモノトス然レモ此種ノ利子ヲ生スル原因ニシテ私犯ノ分子ヲ含ム時ハ凡テ其金員ヲ使用シタル地ノ法律ニヨツテ計算セサル可ラス

使用貨幣

第四支拂ニ用ユヘキ貨幣
支拂ニ用ユヘキ貨幣ハ支拂ヲ爲スヘキ地ノ通貨タラサル可ラ

契約ノ消滅スル諸原因
支拂

ス若シ其訴訟カ外國ニ於テ起リタルトキハ之レヲ受理シタル裁判所ハ契約履行地ノ貨幣ニ相當スル其國ノ通貨ノ類ヲ計算シテ相當ノ處分ヲ爲スヘキモノトス例ヘハ英國ニテ百ポントヲ借リテ同國ニ於テ返済スルノ目的ナリシカ遂ニ米國裁判所ニ訴フヘキコト、ナレリ此場合ニハ米國ノ「ドル」ヲ以テ百ポントニ計算シテ之レニ相當スル金額ヲ返却セサル可ラス即チ自國ノ通貨ヲ以テ拂フヘキモノトス

第六章 契約ノ消滅

羅馬法ニヨレハ左ノ原因ニヨリテ消滅ス

甲 支拂

支拂ノ方法ニ付キテノ争ノ生スルトキハ履行地ノ法律ニヨリテ之レヲ裁判ス

相殺

乙 相殺

相殺ハ通常對手人ノ身分ニヨリテ契約上ノ一般ノ權利義務ヲ定ムル方法ニ從フ

義務ノ更改

丙 義務ノ更改

義務ノ更改ハ一旦義務ヲ消滅セシメ之レニ代フルニ新義務ヲ以テスルモノトス

埋没

丁 埋没

埋没トハ權利義務共ニ一身ニ併合シタルトキニ生スルモノトス

權利放棄

戊 權利者ノ放棄

權利者カ自己ノ權利ヲ放棄シタル場合
法學者一般ノ說ニヨレハ支拂地ニ於テ契約ヲ消滅セシメタルトキハ何レノ地ニ於テモ其契約ヲ消滅セシムヘキ効力アルモ

ノナリト又或ル學者ノ說ニヨレハ契約ヲ締結シタル地ノ法律契約ノ消滅ヲ支配スト然レモ此說ハ契約締結ノ地ト契約履行ノ地トヲ同視シタルヨリ出ツル所ノ誤謬ニシテ若シ契約履行ノ地ト契約締結ノ地ト同シカラサルトキハ契約履行ノ地ノ法律ニ從フヘキモノトス

出訴期限

契約上ノ出訴期限ニ關シテ若シ一ノ契約カ數個國ニ跨ルトキハ何レノ國ノ法律ニ從フヘキカ此問題ニ關シ重ナル學說ヲ舉クレハ出訴期限ハ手續法ナルヲ以テ訴訟地ノ法律ヲ以テ之カ處分ヲ爲ス可キ者ナリト然レモ出訴期限中ニモ其効力主法トモ云フヘキ者ト又ハ助法トモ云フヘキモノトノ別アリテ之レヲ區別スルコト甚タ困難ナリ而カシテ現時英國法ニ依レハ外國ノ出訴期限ハ英國法ニ定メタル期限ヨリ短カクシテ且ツ英

國法ノ如ク其法律ノ効果カ起訴ノ原因ニ影響ヲ與フルモノニ非スシテ單ニ其出訴ニ付キ制限ヲ與ヘタルモノナルトキハ英國ノ出訴期限ニ從フト云フヲ以テ定論トス

第七章 契約ノ讓與

契約ノ讓與ハ讓與ノ地ノ法律ニ從フ

契約ノ讓與ニ付キテハ其讓與ヲ爲ス地ノ法律ニ依リテ處分スヘキモノナリトス而シテ其讓受ケタル契約ニ付キ出訴ヲ爲ス場合ニ於テ讓受人カ自己ノ名義ヲ以テ出訴シ得ルヤ又ハ讓渡人ノ名義ヲ以テ出訴スヘキヤノコトハ訴訟手續ニ關スルモノナルヲ以テ無論訴訟地ノ法律ニ從フテ之レヲ決定スヘキモノトス

第六編 私犯法

舊時國際上ニ私犯ノ問題少ナシ

私犯上ノ問題ノ分析

抑モ契約ノコトニ關シテハ往時尙ホ何所ノ法律ニヨリ之レヲ判定スヘキカ又其犯罪ヲ審理スルモノハ何レノ裁判所ナルカノ問題ニ付キ屢々困難ナル實例ヲ顯セシカ之レニ反シ私犯ニ至テハ從來國際私法上ノ問題トナリタルコト極メテ稀少ニシテ彼ノ契約ノ如キ錯綜セル問題ヲ惹キ起サ、リシナリ然ルニ近世ニ至リ漸次各國ノ交通頻繁ニ赴クニ從ヒ私犯ニ關スル問題陸續トシテ起生シ遂ニ國際上ノ一大問題ト爲ルニ至レリ今此ノ問題ヲ論究スルニ付キテハ之レヲ左ノ三個ノ項目ニ分テ詳論スル所アデントス即チ

第一 私犯ニ關スル管轄

第二 非行ノ性質

第三 非行ニ對シテ付與スル所ノ救濟

是ナリ逐次之レヲ論述スヘシ

第一章 私犯ニ關スル管轄

私犯ノ管轄地
ハ私犯發生ノ
地ノ法律ニヨ
ル

私犯ニ關スル管轄ニ付キテハ往時契約ニ付キテ行ハレタルモノト同一ナル規則ヲ適用セリ即チ其規則ハ飽迄モ事柄ノ起シタル土地ヲ標準トシ以テ管轄ヲ定メタルカ故ニ一ノ私犯ヲ理由トシテ訴訟ヲ提起センニハ必ス其私犯ノ行ハレタル場所ヲ明示シ其英國裁判所ノ管轄内タルコトヲ表示セサルヘカラス故ニ若シ其場所ニシテ英國裁判所ノ管轄以外ニアルトキハ同裁判所ハ到底其訴訟ヲ受理スルコトヲ得サリシナリ例之ハ彼ノ侵界犯又タハ外國ノ不動産ニ對スル私犯ノ如キハ往時ニ於テハ英國裁判所ノ管轄スル所ニアラサリシナリ蓋シ其理由トスル所ハ敢テ私法上ノ原則ニ據ルニ非ラスシテ全ク手續法

ニ出テタルモノ下ス而シテ此規則ハ千六百六十五年ニ於テスキン子ル對東印度會社ノ事件ニヨリ始メテ明確ヲ致セリ其後彼ノ有名ナルロードマンズフィールド氏ハ此規則ノ正鵠ヲ得タルモノナルヤ否ニ關シ疑訝ヲ懷ケルカ如シ即チ氏ノ意見ニヨレハ事件ノ管轄ヲ定ムルニ付キテハ不動産ノ所有權ニ直接ノ關係ヲ有スル訴訟ト其不動産ニ對スル私犯ニ付キ損害ヲ要償スル訴訟トヲ區別セサルベカラサルモノトセリ既ニ此ノ如キ理由ヲ付シテ判決シタルカ故ニ結局土地ヲ標準トシテ管轄ヲ定ムルノ主義ヲ廢棄セルモノ、如シ而シテ氏ノ意見ハ之レヲ理論上ヨリ云ヘハ昔時ノ主義ニ數歩ヲ進メタルモノナルヤ疑ナシト雖モ當時代ニ於テハ仍ホ昔時ノ主義ニ戀々シタリシカ故ニ遂ニ其後ニ至リツルソシ對マツシカウノ事件ニ於テ全ク氏ノ意見ヲ打破シタリ然レモ社會益々開明ニ赴クニ從ヒ世

人ハ昔時ノ主義ノ陳腐ニ屬スルヲ曉リ假令一度破毀セラレタルニモ拘ハラズ再ヒ其根柢ヲ固ムルニ至リ遂ニビクトリヤ女皇第三十八年及第三十九年ノジュデカチユヤアクトヲ以テ其舊主義ヲ廢スルニ至レリ然レテ此廢止ニヨリテ全然爭論ヲ停止スルコト能ハス其條例發布後ト雖モ尙ホ此種ノ問題ヲ惹キ起シタル訴訟事件一ニシテ足ラサル者ナリモクスハンノ訟件即チ其一例ナリ此事件タル元來其論點トノ後爭論ヲ惹キ起シ得ヘキモノナルニ拘ハラズ不幸ニシテ原被兩造ノ承諾上英國法廷ノ管轄ヲ受クルトナリテ遂ニ判定ヲ受クルノ必要ナキニ至レリ今本訴ノ事實ヲ尋ヌルニ英國ノ某會社ハ西班牙國ノ海岸ニ於テ一ノ波止場ヲ有シタリシカ英國ノ或船舶ハ之ニ衝突シテ大ニ損害ヲ加ヘタリ此事實ヨリ觀察スレハ其波止場ハ西班牙國ノ一部分ナルカ故ニ必竟スルニ本訴ハ外國所在ノ不

動産ニ關スル損害ヲ要償スルニ外ナラサルナリ時ニ該裁判官ハ被告ノ船舶カ原告所有ノ波止場ヲ毀損シタルノ行爲ニシテ西班牙即チ私犯地ノ法律ニ依ルモ非行トナリ又英國ノ法律ニ依ルモ非行トナルモノニアラサレハ起訴スルヲ得サルコトヲ論シ次ニ本訴私犯ノ目的物ハ外國ノ土地ナルヲ以テ此點ヨリ云ヘハ之レヲ英國裁判所ニ起訴スルコトヲ得ヘキヤ否ヤハ一ノ疑問ニ屬スレモ本案ニ於テハ原被兩造ノ示談ノアルアリ故ニ此點ヲ判決スルノ必要ナシト説明セリ又タ「ロールド」ヂヤスチス「ゼームス」氏曰ク若シ夫レ本訴ニ於テ原被兩造ノ間毫モ管轄上ノ契約ヲ締結シタルコトナカリセハ外國ノ土地ニ加ヘタルノ損害ヲ要償スルノ訴訟ハ之ヲ英國裁判所ニ起訴スルコトヲ得ルヤ否ヤニ付キ重大ナル問題ヲ惹キ起スニ至ルヘシ而シテ此點ヲ判決スルヲ見ルノ必要アルニ至ラハ彼ノロルトマン

舊時ノ規則ハ
訴訟ノ性質ト
訴訟ノ手續ト
其方法ヲ異
ス

スフイールト氏ノ意見ハ充分實行セラル、ニ至ルヘキナリ畢
竟此訴件ノ如キハ構成法ニ依テ廢止セラレタル舊主義ニ關ス
ル疑點ヲ含蓄スルモノナリ蓋シ此條例ハ單ニ從來ノ判決例カ
標目トシタル基礎ヲ廢止シタルニ過スシテ其結果マンズフリ
ールド氏ノ意見ヲ適用シタルモノナリ舊時ノ規則ノ存在
スル間ハ訴訟事件ヲ區別スルニ訴訟手續ヨリスルモノト其訴
訟ノ性質ヨリスルモノト二箇ノ方法アリタリ而シテ訴訟手續
ニ依ル區別法ニ於テハ訴訟事件ヲ二分シテ地方ニ屬スル訴訟
及ヒ移動ノ訴訟トス蓋シ此區別法ハ英國法律ノ固有ナル規則
ヨリ其必要ヲ生シタルモノナルヲ以テ若シ其訴訟手續ノ變更
セラル、時ハ此區別法モ亦變更セラレサルヲ得サルナリ又タ
訴訟ノ性質ニヨル區別法トハ訴訟ヲ分テ英國裁判所ノ判決ニ
ヨリ其目的ヲ達スルヲ得サルモノ及ヒ英國裁判所ノ發スル令

狀ニヨリテ充分満足ヲ得ヘキモノ、二種トス其ノ英國法廷ノ
判決ニヨリ其目的ヲ達スルコトヲ得サル訴訟トハ外國ニ於ケ
ル不動産ノ所有權ニ關スル訴訟ノ如キモノヲ云ヘ英國法廷ノ
令狀ニヨリ其目的ヲ達シ得ヘキ訴訟トハ訴訟ノ目的カ人産即
チ動産タル場合ニ於テ其所有主カ英國裁判所ノ管轄内ニアリ
テ起ス所ノ訴訟ヲ云フ

右ニ述ヘタル區別法ハ即チ昔時ノ規則ノ存在シタル間ニ行ハ
レタルモノナリト雖モ前述セル條例ニヨリテ昔時ノ規則ノ廢
棄セララル、ニヨリ其枝葉タル區別法モ亦タ從テ廢止セラレ唯
タ性質ニヨル區別法ヲ存スルノミナルニ至レリ而シテ此性質
ニ依ル區別法ハ上來論スル所ノ問題ニ對シ毫モ關係スル所ア
ラサルナリ則チ外國ニ於ケル不動産ノ所有權ニ關スル訴訟ノ
如キハ此區別法ノ影響ヲ受クルコト素ヨリ論ヲ俟タスト雖モ

前述セル訴件ノ管轄ニ付キテ異論アルノ點ハ損害要償ノ場合ナリトス而シテ該訴件ノ如キ其原因不動産ヨリ起生シタルモノナリト雖モ其直接ノ爭點トスル處ハ其不動産ニ對スル損害ニ付キ之レカ要償ノ權利アリヤ否ニ歸着スルモノトス然ラハ果シテ如何ナル理由ニヨリ英國裁判所ニ於テハ斯ノ如キ性質ノ訴訟ヲ管轄スルヲ得サルヤ其理由ヲ發見スルニ苦ムナリ畢竟スルニ英國裁判所ハ斯カル訴訟ヲ管轄シ完全ナル効力ヲ有スル所ノ裁判ヲ言渡スコトニ躊躇スヘキニ非サルナリ然レモ前述セルモクスハムノ訴件ニ於テ裁判官ノ明言シタル如ク此點ニ付キ多少ノ疑點ナキニアラス

上來講述シタル所ニヨレハ私犯ニ關スル訴訟事件ノ管轄規則ノ沿革ハ全ク昔時ノ規則カ裁判所ノ管轄ニ影響ヲ及ホシタルコトヲ略述シタルモノナリ對人私犯即チ歐打脅迫等ノ場合ニ

英國ニ於ケル
對人私犯

於テモ英國裁判所ノ管轄ニ妨害ヲ與ヘタル事項アリ左ニ之レヲ論述セン

抑モ往昔ニ於テ歐打若シクハ脅迫ノ訴訟ヲ起サントセハ必ス其訴狀ニ記載スルニ被告人ノ所爲ハ國王ノ安寧ヲ侵害シタリ云々ノ言語ヲ以テシ且ツ其事實ヲ證明セサルヘカラス是即チ其訴訟ニ於テ遵守セサルヘカラスノ必要條件ナリトス故ニ若シ英國人カ外國ニ於テ此等ノ所爲ヲ受ケタルハ如何ナル場合ヲ問ハス到底英國ノ安寧ヲ妨害シタリト云フコトヲ得サルヤ明カナリ故ニ其必要書式タル文詞ヲ記入スルヲ得サルヘク又タ之レヲ記入スル其事實ヲ證明スルヲ得サルヘシ從テ英國裁判所ニ於テ決シテ其訴訟ヲ受理スルコトナカリシナリ然ルニ彼ノロルトマンズフィール氏此點ニ付キテモ其當否如何ヲ疑ヒ反對ノ意見ヲ述ヘテ曰ク此ノ如キ種類ノ訴訟ハ其所爲

近時國際法ノ
進歩

ノ行ハレタル場所ノ如何ヲ論セス原被兩造ニ於テ英國法廷ノ管轄ヲ受クルニ故障ナキハ該法廷ニ於テハ充分ノ管轄權ヲ實行スルコトヲ得ヘシト論セリ

右ニ述ヘタル如ク場所ニ關スル規則及ヒ書式ノ二者ハ共ニ裁判所ノ管轄權ヲ妨害シタルモノニシテ二者共ニ訴訟手續ヨリ來ル所ノ結果ナリトス而シテ此二者モ亦タ千八百五十二年ノ頒布ニ係ル訴訟手續條例ニヨリ廢止セラレ、ニ至リ現今ニアリテハ國際法上ノ原理ニ準據シテ其管轄權ノ有無如何ヲ規定スルニ至レリセルウキン判事曰ク英國ノ臣民ナルト將タ外國ノ臣民ナルトヲ問ハス其外國ニ於テ受ケタル私犯ニ關シ英國裁判所ニ其損害要償ノ訴ヲ提起スルコトヲ得ヘシ是レ即チ現今ニ於テ確定シタル原則ナリト畢竟此點ニ關スル結局ノ規則ハ英國裁判所ハ對人非行ニ關スル萬般ノ訴訟ヲ管轄スルノ權

アルヲ以テ其非行ヲ爲シタル場所及ヒ之レヲ犯シタル人ノ何如ニ拘ハラズ總テ之レヲ管轄スルヲ得ルト云フニアリ然レモ夫レ之レヲ管轄スル爲メ國際上ノ交誼ニ影響ヲ及ボシ又ハ英國ノ法律ニ違反スルカ如キ特別ノ場合ニ於テハ英國裁判所ハ訴訟ヲ管轄スルヲ得サルモノトス

第二章 非行ノ性質

上來論述シタル所ハ非行ニ關スル英國裁判所ノ管轄權ノ概畧ナリ是ヨリ事實ノ果シテ非行ヲ組成スルヤ否ヲ判定スルニハ何レノ法律ニ依ルヘキヤ即チ非行ヲナシタル場所ノ法律ニ依ルヘキヤ又ハ之カ救濟ヲ請求スル裁判所所在地(英國ノ法律ニ依ルヘキヤ)ノ點ニ付キ講述スル所アレントス

凡ソ英國裁判所ノ救濟ヲ請求シ得ヘキ非行ハ其所爲ノ行ハレ

非行ニ對スル
裁判所ノ管轄
ハ該非行アリ
タル地ニ屬ス
ルヤ否

英國ノ私犯ハ
犯地ト英國ト
ニ於テ非行タ
ルモノニ限ル

タル場所ノ法律ニ依ルモ亦タ英國ノ法律ニ依ルモ共ニ非行ト
認メラルヘキモノナルヲ要ス故ニ若シ其一方ノ法律ニ依レハ
毫モ非行トナスニ足ラサルモノナルハ其如何ナル性質ノモ
ノタルヲ問ハス損害要償ノ訴ヲ起スヲ得サルナリフイリツプ
ス對アイルノ訴件ニ於テウイリス判事ノ説明スル所ハ能ク此
原則ヲ解疏シタルモノナルヲ以テ之レヲ左ニ掲ケン

非行ノ二條件

非行ハ訴訟ヲ
起シ得ベキモ
ノタルヲ要ス

氏ノ説明ニ曰ク凡ソ外國ニ於テ犯サレタル非行ニ付キ其損害
ノ要償ヲ英國裁判所ニ起訴セントスルハ必ス二箇ノ條件ヲ
具備セサルヘカラス
其第一ノ訴訟ノ目的タル非行カ若シ英國ニ行ハル、并ハ全國
ノ法律ニ依リテ訴訟ヲ起シ得ヘキ性質ノモノナラサルヘカラ
サルコト是ナリ換言スレハ英國法律モ亦タ其行爲ヲ以テ非行
トナスモノナラサルヘカラス彼ノバレ―訴件即チ白耳義ノ法

行フタル行爲
ノ不法ナラサ
ルベカラズ

律ニヨリ強制ヲ受ケテ雇入レタル水先案内ノ不注意ヨリ起リ
タル船舶ノ衝突ニ對シ損害賠償ヲ請求スル事件ニ於テ樞密院
ノ司法委員ハ其水先案内ノ雇入レカ白耳義法律ノ命令スル所
ナレハ之レヲ船主ノ傭人ト見做スコトヲ得サルモノニシテ從
テ其案内人カ船舶ノ指揮運送ヲ掌ル間ト雖モ船主ノ代理人ト
看做スコト能ハサルナリ故ニ右案内人ノ過失ヨリ生シタル損
害ハ船主ニ於テ之レカ責ニ任スヘキ理由ナキモノナリト判決
セリ

第二ノ條件ハ其訴訟ノ目的タル所爲ハ其行ハレタル場所ノ法
律ニ依ルモ不法ノモノナラサルヘカラスナルコト是ナリト
右ハ判事ウオルス氏説明ノ概要ナリ此他モクスハムノ訴件ニ
於テモ又此原則ニ關スルメリツシユ氏ノ説明アリ今之レヲ左
ニ畧述セン

所爲ハ非行ト
ルモ行爲地ニ
於テ後ニ其行
爲ヲ適法トセ
ル場合

氏ノ説明ニ曰ク外國ニ於テ受ケタル損害及ヒ動産ニ關スル非
行ニ就テハ其所爲カ其行ハレタル場所ノ法律ニ依ルモ又タ英
國ノ法律ニ依ルモ共ニ非行トナルモノニアラサレハ訴訟ヲ起
スコトヲ得ス是レ確乎不拔ナル法律規則ナリト
上來講述シタル原則ハ實ニ明瞭ニシテ一點ノ疑ナキカ如シト
雖モ又往々ニシテ困難ナル問題ヲ生スルコトアリ即チ訴訟ノ
目的タル所爲ハ英國法律ニ依レハ現ニ非行ヲ組成スト雖モ行
爲地ニ於テハ其行爲アリタル後頒布シタル法律ヲ以テ其行爲
ヲ適法ノモノトナシタル場合ノ如キ是レナリ今判決例ヲ引用
シ此問題ヲ解説スル所アラントス
ブラツグ訴訟事件ニ於テノツチングハム氏ハ判決ヲ下メ曰ク
丁抹政府ノ命令ヲ奉シ氷島ニ於テ決行シタル捕獲ハ同所ニ於
テ毫モ不法ノ點ナキカ故ニ損害要償ノ訴訟ヲ英國裁判所ニ提

起スルコトヲ得スト蓋シ此訴件ノ原告ハ英國人ニシテ其主張
シタル點ハ被告カ氷島ニ於テ差押ヲナシタルハ英吉利及丁抹
ノ間ニ締結シタル條約ニ違反セル所爲ナリト云フニアリ然レ
モ裁判所ハ條約ノ違背ヲ以テ兩國政府交渉ノ事項ナリトシ一
私人ノ間ニ起リタル訴件ニ於テ之レヲ論スヘキモノニアラス
ト判決セリ畢竟或所爲ニシテ其行爲地ニアリテ適法ノモノナ
ルハ決シテ義務ヲ負擔スヘキモノニアラサルナリ又此原則
ヲ説明スル他ノ訴件ハドブレー對ナピイル訴件ナリトス
今其事實ヲ畧述センニ英國人タル被告ナピイルハ英法ノ規定
ニ違反シテ葡萄牙政府ノ招聘ニ應ジ或官職ヲ奉シ居リシカ一
英船アリ葡萄牙領内ノ海上ニ於テ封鎖ヲ破リタルヲ以テ之ヲ
差押ヘタリ此場合ニ於テ裁判所ハ假令被告カ英國法律ニ違反
シ葡萄牙政府ニ備ハレタル點ニ依リ刑法ノ制裁ヲ免レスト雖

モ其差押ハ葡萄牙政府ノ命令ニ出テタルモノニシテ全國法律ノ敢テ不法トスル所ニアラサルカ故ニ英國法廷モ亦タ其所爲ノ民事上正當ノモノタルヲ認メサルヘカラスト判決セリ又タ或訴訟事件ニ於テ英國船ノ船長ハ智利政府ト契約シテ流刑ニ處セラレタル犯罪人ヲ同國ヨリリバアプールマテ送致スルコトヲ引受ケ之レヲ履行シタリ然ルニ英國ニ於テハ船長ハ不法監禁ノ犯罪ヲ構成シタルモノトシテ求刑セラレタリシカ裁判所ハ被告ノ所爲タル智利政府ト契約シタルコトヲ履行シタルモノナレハ苟モ智利政府ノ領内ニアル間ハ正當ノ所爲ナリト雖モ全國ノ領外ニ出テ、尙ホ其監禁ヲ解カサル以上ハ茲ニ犯罪ヲ構成スルモノナリト判決セリ此事件ハ刑事事件ニシテ民事ニ關係スルコトナキカ如シト雖モ其理論ニ至リテハ之レヲ民事上ノ身体侵界又ハ不法監禁ノ訴訟ニ適用スルコトヲ得

ルモノトス而シテ右ノ事件ヲ裁判スルニ當リイロル判事説明シテ曰ク被告カ智利政府ノ領内ニ於テ犯罪人ヲ監禁シタルコトハ素ヨリ適法ノ行爲ナリトス蓋シ被告ハ智利政府ノ命令ヲ受ケ其代理人ヲシテ此行爲ヲナシタルモノナレハナリ然レモ苟モ全政府ノ領地外ニ在テ其行爲ヲ繼續シタル以上ハ被告ハ犯罪ヲ構成シタルモノナルヲ以テ刑法上ノ責任ヲ免ルヘキモノニアラスト又フイリツプ對アイル事件ニ於テ被告ハ英領ジヤマイカ島ニ於テ原告ヲ監禁セシカ其後頒布セラレタル條例ニ依リ其行爲適法ノモノトナセリ

蓋シ被告ハ當時職ヲジヤマイカ島司ニ奉シ條例發布ノ如キ事項ニ關シテハ自己自ラ之レニ干涉シタルノミナラス苟クモ被告ニ於テ條例ニ付キ承認ヲ表セサル以上ハ到底法律ノ効力ヲ有セシムルコト能ハサルモノナレハ要スルニ被告ハ自己ノ意

思ニヨリテ前述セル條例ヲ頒布シタルモノト云フモ誣言ニア
 ラサリシ程ナルモ裁判所ハ被告ノ所爲ヲ以テ事後ノ頒布ニカ
 ヲル條例ニヨリ敢テ責任ナキモノト判決セリ而シテ此訴訟事
 件ノ判決アリタル以後ハ亦タ此點ニ關シテ判決ヲ與ヘタルノ
 判決例ヲ見サレモ樞密院ノ判決ニ依レハ暗ニ其理論ヲ採用セ
 ルモノ、如シ今其訴件ノ事實ヲ述ヘンニ被告ハ支那政府ニ雇
 ハレ或役務ニ執掌セシカ北京ノ或官衙長官ヨリ原告ノ身上ニ
 關シ被告ニ或事柄ヲ問合セタル片被告ハ之レニ對シテ詐僞ノ
 陳述ヲ爲シタルニヨリ原告ハ爲メニ解備セラルヘニ至レリ偕
 此事實ニ付キ樞密院ハ如何ナル判決ヲ下シタリヤト云フニ全
 院ニ於テハ支那ノ政府ニシテ飽マテモ被告カ爲シタルカ如キ
 答辯ヲ保護シ之レカ責任ヲ負擔セシメサルノ規則ヲ定メ又ハ
 之レカ主義ヲ取ル以上ハ英國裁判所ニ於テ被告ニ對シ責任ヲ

負擔セシムルノ言渡ヲナスヲ得スト判決セリ蓋シ支那政府ノ
 主義此ノ如クナル以上ハ英國ニ於テ之レニ反對ヲ試ムルカ如
 キコトアラハ列國間ノ交誼ニ戻ルモノニシテ隨テ英國ノ公益
 ニ反スルモノト云ハサル可カラス故ニ英國法律ニ依レハ純然
 タル非行ト見做サル、モノト雖モ之レカ責任ヲ負擔セシメサ
 ルヲ以テ其當ヲ得タルモノト云フヘシ

以上講述シタル如ク前掲ノ問題ニ就テハ種々ノ判決例アリト
 雖モ其判決ノ要點ヲ約言スレハ假令或所爲ノ行ハレタル際ニ
 於テハ其行爲ノ地ノ法律ニ依ルモ又英國法律ニ依ルモ共ニ其
 行爲ヲ目シテ非行ト見做シタリト雖モ其後ニ至リ一方ニ於テ
 其所爲ヲ適法ト認メ隨テ要償ノ訴訟ヲ起ス能ハサルモノトナ
 リタル時ハ恰モ當初ヨリ非行ニアラサルト同ク英國ニ於テハ
 要償ノ訴訟ヲ起スコト能ハサルモノナルコトヲ明示スルモノ

非行地ノ法律ハ犯罪ト見做スモ其損害賠償ノ請求ヲ許サハルモニ於テ訴訟地ノ英國法廷ハ如何スベキカ

ト云フベシ然ルニ非行地ノ法律ニ於テ犯罪ヲ組成スルノ所爲ナルモ之レカ損害賠償ノ請求ヲ許サハルモノナルハ訴訟地即チ英國ノ法廷ハ如何ニ之レヲ處分スヘキヤト云フニ此問題ニ付キテハ一二ノ異論ナキニアラス然レモホワイトマン氏ノ説明ニヨレハ或所爲ニシテ單ニ其行爲地ノ法律カ要償訴訟ヲ許サハルノ點ヲ以テ訴訟地即英國ニ於テモ損害賠償ノ訴訟ヲ提起スルコトヲ得サルモノニアラストセリ然レモ此説明タル氏カ判決ヲ下スヘキ必要ナル點ニ非サルノミナラス同列ノ裁判官モ之ニ反對セル者ナキニアラサレハ到底之レヲ以テ判決先例トナスコトヲ得サルナリ而シテ其後ノ判決例ニ於テモ此說ヲ採用シタルモノアルヲ見ス之レヲ要スルニ所爲ノ性質カ犯罪又ハ非行ヲ組成スルモノカ或ハ訴權ヲ生スヘキモノナルカ又ハ適法ナルモノナルカノ諸點ハ一ニ行爲

地ノ法律ニ照シ之レヲ定ムヘキ者ニシテ若シ全地ノ法律ニヨリ或非行ニ對スル要償ノ請求ヲ許サハル時ハ何レノ裁判所ト雖モ之レニ從ハサルハカテサルナリ而シテ此點ニ關スル問題ヲ惹起シタル第一ノ訴訟ハ即スコツト對セムスノ事件ナリトス今其ノ梗概ヲ按スルニ被告ハ或犯罪ヲ行ヒシモ其非行タル單ニ國家ニ對スルニ止マリ敢テ私訴ヲ許ス所ノモノニアラサリシヲ以テ假令其所爲ニヨリテ損害ヲ受ケタルモノアルモ毫モ之レカ要償ノ訴訟ヲ提起スヘキモノニ非サリシナリ然ルニ或ル論者ハ救濟法ハ元ト手續ノ問題ニ屬スルモノナルヲ以テ以上ノ場合ノ如キハ裁判所々在地ノ法律ニヨリテ之レヲ判定スヘキモノト主張セリ然レモ非行地ノ法律ニ於テ刑事ノ告訴ヲ許スモ民事訴訟ヲ許サハル場合ニ於テハ是レ即チ或所爲ニ付キ其性質ヲ確定シ一ハ以テ被害者ノ請求シ得ヘキモノト

一ハ以テ請求シ得ヘカヲサルモノト區分セシ者ナリ加之元來告訴ナルモノハ敢テ一私人ニ對スル救濟ノ道ニアラスシテ專ラ公益公安ヲ保護スルノ精神ニ出ツルモノナレハ若シ非行地ノ法律ニシテ民事上ノ請求ヲ許サ、ル時ハ即チ其所爲タル一私人ニ對スル非行ヲ組成スルニ足ラサルモノト見做シタルノミナラズ又請求權ナルモノハ元來第一ノ權利ヲ侵害セラレタルニ依リ初メテ起生スル所ノ救濟權ナルヲ以テ第一ノ權利ノ侵サレタル後ニアラサレハ決シテ之レヲ利用スルコトヲ得サルモノナルヤ明ナリ然ラハ即チ非行地ノ法律カ民事上ノ訴訟ヲ許サ、ル場合ニ於テハ未タ第一權ノ毀損セラレタルコトヲ認めサルモノナルヲ以テ從テ第二權即チ救濟權ヲ起生スルノ所爲アラサルナリ而シテ此原則タル私犯契約若シクハ買賣ノ場合ニ於テモ亦タ之レヲ適用スヘキモノトス然ルニ若シ或論

者ノ如ク非行地ニ行ハル、法律ノ如何ヲ問ハズ損害要償ヲ英國法廷ニ起サントスルモ其非行タル業已ニ前述ノ二條件ヲ充實セザルヲ以テ同法廷ハ到底其訴訟ヲ受理スルコトヲ得サルヤ明カナルヘシ又タ何レノ國法モ管轄スルヲ得サルノ場所ニ於テ行ハレタル私犯ニ付テハ以上述ヘタル所ノ原則ヲ適用スルヲ得サルモノナルカ故ニ此ノ如キ場合ニ於テハ訴訟地ノ法律ニ依テ其非行ナルヤ否ヤヲ決定スヘキモノトス即チ辭ヲ換ヘテ之レヲ云ヘハ何レノ國法ノ管轄ニモ屬セサル場所ニ於テ行ハレタル非行ノ性質ハ訴訟地ノ法律ニ依リ之レヲ定ムヘシ

第三章 非行ニ對シテ附與スル所ノ救濟

凡ノ救濟及ヒ訴訟手續ハ專ラ訴訟地ノ法律ニ從フヲ以テ一般ノ原則トス私犯ノ訴訟ト雖モ亦タ此原則ノ例外タルヲ得サル

ナリ而シテ國際私犯ニ於テハ他國ノ法律ニ關係ナキ事項ヲ論
 セサルヲ以テ他國ノ法律ノ規定セル所ハ救濟法則チ手續法ナ
 ルヤ或ハ又主法ナルヤノ解釋論ヲ生スルコト多シ例ヘハ出訴
 期限ニ關スル法律ノ如キ一定ノ期限ノ經過ニヨリテ起訴權ヲ
 褫奪シ其權利ヲシテ効力ヲ有セシメサル場合ニ於テ其權利タ
 ルヤ表面上消滅シタルト全一ノ効果ヲ生ス即チ此ノ如トキ場
 合ニ在リテハ其規定ノ性質上單ニ手續法ニ止マルアリ又タ之
 レト外形及ヒ結果手同シフシテ其性質主法ニ屬スルモノアリ
 故ニ此等ノ問題ヲ規定センニハ先ツ其外國法律ノ規定スル所
 ノモノハ權利自身ニ關スルカ又ハ權利伸張ノ手續法ニ屬スル
 カヲ決定セサルヘカラス若シ外國ノ法律ニシテ單ニ手續法ニ
 屬スルモノナル時ハ其法律タル唯タ其國ニ効力ヲ有スルニ止
 リ敢テ英國裁判所ニ於テ之レニ準據スルヲ要セサルナリ之レ

法律ガ權利ノ
 性質ヲ定ル場
 合

ニ反シ其法律タル權利自身ノ性質ヲ定ムルモノナル場合ニハ
 何國ノ裁判所ト雖モ之レニ從ハサルヘカラスナリ判事ウエ
 ルス氏曰ク凡ソ民法上ノ責任ハ其行為地ノ法律ヨリ生スルモ
 ノニシテ其所爲ノ性質モ亦タ行為地ノ法律ニヨリ斷定セサル
 ヘカラス故ニ外國ニ於テ爲シタル所爲カ其場所ノ民法上正當
 ナルモノナル時ハ何レノ裁判所ト雖モ之レニ對シ民法上ノ責
 任ヲ負ハシメサルヲ得ス尤モ或ル邦國ノ條例カ特ニ其所爲ニ
 對シテ責任ヲ負擔セシムル場合ハ此限ニアラサルナリト故ニ
 若シ犯罪地ノ法律ニ於テ其所爲ニ對スル要償ノ訴訟ヲ許ス時
 ハ被害者ハ英國法廷ニ出訴シテ損害賠償ヲ請求スルコトヲ得
 ルモノトス但シ此場合ニ於テハ英國ノ訴訟手續ヲ踐行スヘキ
 コト勿論ナルヘシ又タ或邦國ノ法律カ或所爲ヲ禁止シ之レニ
 違背シタルモノニ對シテ刑罰ヲ附加スヘキコトヲ規定スルコ

訴訟地ノ法廷ニ於テ争フ所ノ外國法律ハ手續ナルカ將テ所爲ノ性質ヲ定ムルモノナルカ

トアルモ單ニ此理由ニ基キ其所爲ニ對シテ民事上訴訟ヲ提起シ以テ賠償ノ請求ヲ爲スコトヲ得サルモノトス然ルニ前ニ述ヘタル如ク所爲ノ性質ヲ定メタル法律ハ何國ノ裁判所ニ於テモ之レニ從ハサルヘカラサルモ之レニ反シテ手續ヲ定メタル法律ハ他國ノ裁判所ニ於テ之レニ從フヲ要セサルナリ故ニ本項ニ於テ探究スヘキ主要ナル問題ハ訴訟地ノ法廷ニ於テ争ハル、所ノ外國法律ハ手續則チ救濟法ナリヤ又ハ所爲ノ性質ヲ定ムル法律ナリヤノ點ニアリトス
夫レ斯ノ如ク救濟ニ關スル外國ノ法律ハ他國ノ裁判所ニ於テ之レニ從フニ及ハスト雖モ行爲地ノ法律ニ於テ故ラニ規定シタル救濟ノ方法アル時ハ訴訟地ノ裁判所ハ之レヲ參照シテ賠償ノ金額ヲ計算セサルヘカラス例ヘハ本邦ノ如キ利足制限法ノ行ハル、邦國ニ於テ負債主カ違約シタリトセンニ其債主カ

大洋上ノ私犯

外國ノ裁判所ニ於テ訴訟ヲ起シ利息ノ仕拂ヲ請求スルトキハ其裁判所ハ我國ノ利足制限法ヲ參照シ其制限以內ニ在テ利子ノ額ヲ判定セサルヘカラス
大洋ニ於テ行ハレタル私犯ハ英國ニ在テハ海上裁判所ノ管轄スル所ニシテ其賠償金額ノ如キモノハ專ラ同國ノ法律ノ規定ニ從フヘキモノトス然レモ英國ニ於テ特ニ條例ヲ發シテ之レト異リタル主義ヲ規定シタル場合ハ敢テ此限ニアラサルナリ畢竟スルニ英國法ノ精神ハ大洋ニ於テ行ハレタル非行ヲ以テ專ラ裁判所々在在地即チ訴訟地ノ法律ノ管轄ニ屬セシメ恰モ全斷ノ法律ヲ以テ之レヲ非行地ノ法律ト同一ニ見做サ、ルヘカラスト云フニ至レリ

第七編 刑法

犯罪ノ管轄ハ
英國ト他ノ歐
洲大陸ト差異
アリ

刑法上ノ犯罪ヲ管轄スルコトニ付キ種々ノ議論アリテ英國ノ主義ト歐洲大陸ノ主義ト其間少シク差異ナキニ非ス今其主義ノ重モナルモノヲ擧ケテ之ヲ説明セントス

第一章 管轄ハ犯罪ノ地ニ限ルノ説

犯罪ハ犯罪地
ニ於テ之ヲ管
轄スル原則ト
ス

刑法上ノ管轄ハ現ニ犯罪ノアリタル場所ヲ以テ其管轄トナスヘキハ第一ノ原則タルカ如シストリ一氏曰ク英國普通法ハ犯罪ヲ以テ土地ト密接ノ關係ヲ有スルモノトスト故ニ犯罪ハ其犯罪ノアリタル地ニ於テ之ヲ管轄スヘキモノトセリ又英國治罪ノ手續ニ依ルニ犯罪アリタル時ハ先ツ犯罪ノ地ノ警察或ハ治安裁判所ニ公訴ヲ起スヘシ且ツ犯罪人ト思量セラル、モノ證據ニヨリ指示セラル、片ハ其者ヲ逮捕スルノ手續ヲ爲シ若シ裁判所ノ管轄内ナレハ通常ノ手續ヲ以テシ管轄外ニ於テ逮

犯罪地ノ管轄
ニ屬セシムル
利益

捕スルノ必要アルトキハ其逮捕スヘキ地ノ司法官吏ニ於テ令狀ニ裏書セラレサルヘカラス若シ外國ニ於テ被告人ヲ逮捕スヘキ場合ニハ犯罪人引渡條約ニ依リテ引渡サレサルヘカラス而シテ求刑書ニハ其犯罪ハ裁判所ノ管轄内ニ於テ犯シタルモノナルコトヲ明記スルヲ要ス元來犯罪地ハ被告人ヲ管轄スルモノナリトハ古來ヨリ種々ノ理由ヲ付シテ之ヲ説クモ要スルニ此ノ原則ハ法理ニ適シタルモノト云ハサルヲ得ス其故何トナレハ犯罪ノ地ハ犯罪ヲ目撃セシ證人ヲ呼出スコト及ヒ其犯罪ノ場所ニ臨檢スルコト等ニ付キ大ニ便利ナリ又多クノ場合ニ於テハ犯罪人カ其犯罪地ヲ逃レサル以前ニ逮捕スルモノナレハ逮捕ノ地ト犯罪ノ地トハ同一ナルコトヲ推測スルコトヲ得ヘシ故ニ犯罪ノ地ヲ以テ第一ノ管轄ナリトスルノ原則ハ便宜ニ適シタルノミナラス又條理ニ協フタル者ト云ハサルヲ得

犯罪地ノ管轄

ス

右述ヘタル處ノ犯罪地カ管轄ヲ有スルモノナルコトハ一國內
 則チ一主權者ノ下ニ在リテ管轄區域カ數區ニ分レタル場合ナ
 ルノミナラス各獨立國ノ場合ニ在リテモ亦タ適用セラルヘキ
 モノナリ何トナレハ獨立國ハ相當ト看認ムル處ニ從ヒテハ國
 權ヲ維持シ公安ヲ保ツノ權ヲ有スルカ故ニ其國內ニ於テ犯サ
 レタル罪ハ之レカ管轄權ヲ有スヘキハ至當ノ事ナリト云ハサ
 ル可ラス若シ又タ一個ノ犯罪ニシテ數國ニ亘リ之レヲ犯シタ
 ルトキハ總テ其被害國ニ於テ之ヲ管轄スヘキモノトス
 今各獨立國ハ自國內ニ於ケル罪ヲ管轄シ得ヘキコトハ疑フヘ
 キコトニ非ス而シテ又各獨立國ハ其國內ニ於テノ犯罪ヲ管轄
 スルニ止ツテ敢テ犯罪地以外ニ於テ犯罪ノ地ト同様ニ管轄權
 ヲ有スヘキ場合ナキヤ否ノ疑問是ナリ言ヲ換テ之ヲ云ヘハ邦

犯罪地外ニ管轄權ヲ有スル場合ナキヤ

犯罪地ノ管轄ノ例外

國ハ自國內ノ犯罪ヲ管轄スヘキノミニシテ犯罪ノ地外ニ之ヲ
 管轄スヘキモノアリヤ否ヤ是ナリ
 凡ソ犯罪ハ犯罪地ノミ管轄セラレヘシトノ原則ハ總テノ場合
 ニ之ヲ適用スヘカラサルモノニシテ種々ノ例外ナキ能ハス例
 之英人カ佛國ニテ英國ノ治安ニ關スル罪ヲ犯シタル場合ニ於
 テ犯罪ノ地ハ佛國ナレハ英國ニ歸ルモノ之ヲ罰スルコトヲ得サ
 ルカ若シ夫レ斯ノ如キ場合ニ當リテ之ヲ罰スルコトヲ得サル
 トセハ邦國ハ自國ノ安寧ヲ保持スルヲ得サルモノニシテ今日
 ノ如キ交通頻繁ノ世ニアリテハ實ニ危險ノ事ト云ハサルヲ得
 ス即チ甲國ノ罪ヲ乙國ニ犯シ得ヘキハ容易ナルニモ關ハラズ
 若シ犯罪ノ地ヲ以テ一ニ管轄權ヲ有スルモノトセハ斯ノ如キ
 不都合ノ發生スヘキコトハ必然ナリ又タ斯ル場合ニ於テハ獨
 リ犯サレタル國ノ害ノミナラス犯罪ノ地ノ政府モ亦其害ヲ蒙

犯罪地一定セ
サル場合

ルヲ淺少ナラサルヘシ何トナレハ他國ノ犯罪ヲハ自由ニ自國ノ領内ニ行ハシムルモノニシテ恰モ姦惡ノ徒ヲ自由ニ發生セシムルニ等シケレハナリ又一ノ不便ハ海賊ノ如キモノヲ罰スルノ方法ナリトス抑モ海賊ノ如キハ一葉ノ輕舸ヲ以テ萬里ノ蒼波ヲ凌キ朝ニ東ニ犯シテ夕ニ西ニ寇ス何レノ政府カ能ク此ノ茫々タル海洋ヲ監シ又タ能ク船中ノ犯罪ヲ督スヘケンヤ然ラハ即チ海賊ノ如キハ何レノ政府ニモ屬セサルカタメ之ヲ管轄スルノ場所ナキニ至リ生民ノ自由安寧ヲ舉ゲテ是等ノ賊手ニ委棄スルニ至ラントス又法律制度ノ發達セサル未開ノ國ニ在リテハ未タ犯罪ヲ罰スルノ方法充分整備セサルカタメニ文明國ノ人民ハ未開國ニ行キテ商業ヲ爲スコト能ハサラントス斯ノ如ク論シ來レハ犯罪ノ地ヲ以テ一ニ管轄權ヲ有スルモノトナセハ内國ノ犯罪ニ對シテハ充分ノ道理アレトモ外國ノ犯罪ニ

犯罪地ノ法律
管轄ニ關スル
米國ノ例外

對シテハ不道理且ツ危險ト云ハサルヲ得ス而シテ此説ヲ主張スルモノ多クノ例外ヲ設ケテ僅カニ其適用ヲ滑カニセントスレハ幾ント原則タルノ價值ヲ失シタルモノト云フモ不可ナキ程ニ至レリ合衆國憲法ニ依ルニ其第六ノ修正按ニ曰ク
總テ刑事ノ公訴ニ於テ被告人ハ迅速ニシテ且ツ公然ノ審理ヲ受クルノ權アルヘク而シテ犯罪ノ地ノ公平ナル陪審官ニ依リ審判セラルヘシ而シテ被告人ハ公訴ノ性質并ニ原因ニ付キ前以テ之カ通知ヲ受ケ被告人ノ利益ノタメニ證人ヲ呼出シ自己ヲ辨護スル處ノ辨護人ヲ用キルコトヲ得
此文ニ依レハ米國ノ憲法ニ依ルモ犯罪ノ地ニ於テ一ニ犯罪ヲ管轄スヘキモノトナシ其地以外ニ於テハ管轄權ヲ有セサルモノトナスカ如シ併シナカラ同憲法第三條第二節ニ曰ク
犯罪ハ其犯罪ノ地ニ於テ審判セラルヘキモノトス但何レノ

州ニモ犯罪ノ地アラスカモノニ付キテハ國會ノ指名スル場所ニ於テ審判ヲ開クヘキモノトス

此正條ニ依レハ前ニ述ヘタル原則ハ米國內ニ限り米國外ニ於テノ犯罪ハ國會ノ指名シタル場所ニ於テ審判ス即チ犯罪地外ニ於テ審判スルコトアルヲ明言セリ何トナレハ斯ノ如ク解釋スルニ非サレハ國際公法上ニ於テ犯罪ヲ罰スルコト權ハサルノ場合ヲ生スヘケレハナリ併シ犯罪ノ地ヲ以テ一ニ管轄權ヲ有スルモノトスルノ原則ニ付キ猶ホ例外ト爲スモノアリ今其重ナルモノヲ舉クレハ左ノ如シ

第一節 洋中ノ犯罪

總テ船舶ハ其船舶ノ掲ケタル旗章ノ國ニ屬スヘキモノタルハ法律上確定シタルモノナレハ日本國ノ旗章ヲ掲ケタルモノハ日本領分ノ一部ト看做シ之ヲ處分ス故ニ英國船若シ佛國ニ在ラ

例外ノ主要ナル項目

洋中ノ犯罪

ンカ其船ノ浮ヒタル海ハ英領ニアラスカモ猶ホ其船舶ヲ以テ英領ノ一部ト看做ス

船舶ノ犯罪ヲ以テ自國內ノ犯罪ト同様ニ看做スノ理由ハ頗ル明白ナルモノトス如何トナレハ船舶ハ本國ノ保護ヲ受ケ且ツ其旗章ニ對シテ諸外國ノ敬禮ヲ受クルモノナレハ自ラ船舶ヲ以テ其本國領分ノ一部ト看做スハ適當ノ理由アリト云ハサルヲ得ス一般船中ノ犯罪ハ犯罪ノ地ヲ以テ一々管轄權ヲ有スルモノト爲スノ論者モ尙ホ同意ヲ表スル處タリ英國法ニ依ルニ英國内ニ於ケル總テノ河川ハ英國通常裁判所内ノ管轄ニ屬スレトモ既ニ川ニ流レテ海ニ注クニ於テハ通常裁判所ノ管轄ヲ離レテ海上裁判所ノ管轄ニ屬スヘキモノトセリ故ニ大洋中ノ犯罪ノミナラス港灣波土場外國港等ノ犯罪ハ總テ海上裁判所ノ管轄ニ屬スヘキモノトセリ故ニ其罪ハ或ハ海賊犯ヲ組成ス

英國ニテ洋中ノ犯罪ハ海上ノ裁判所ノ管轄

洋中犯罪管轄
ニ關スル米國
法

沙漠又ハ未開
地ノ犯罪

ルモノトス一千八百五十四年ノ英國商船條例ニ依ルニ英國ノ管轄ハ港灣ニ在ルト船中ニ在ルトト問ハス外國ニ在ル處ノ英國ノ船員カ犯シタル凡テノ犯罪ニ及フコトヲ得ヘシト規定セリ此條例ニ依レハ英國普通法裁判所ハ外國ノ犯罪ニシテ且ツ外國人ナリト雖モ尙ホ之ヲ管轄スルコトヲ得ルナリ右ト同一ノ原理ハ獨佛法中ニモ視ル處ニシテ合衆國ニ於テハ條例ヲ以テ合衆國裁判所ニ左ノ管轄權ヲ與ヘタリ曰ク
總テノ海賊殺人強盜及ヒ船舶ニ對スル犯罪並ニ大洋中ノ總テノ重罪ハ何人ニ依リテ犯サル、ニ關ラス且ツ外國港ニア
ル場合ト雖モ米國船舶内ニ於テ犯サレタル犯罪ヲ罰スルコトヲ得ヘシ亦犯人ヲ逮捕シタル地又ハ第一ニ護送ヲ受ケタル地ニ於テモ之ヲ罰スルモノトス

第二節 沙漠又ハ未開地ニ於ケル犯罪

英國ノ制

沙漠又ハ未開地ニ於ケル犯罪ハ其犯罪者カ何レノ國人ナルト問ハス凡テ之ヲ罰スルモノナリ抑モ沙漠又ハ未開地ニハ政度ノ道立タス法律ノ制行ハレサルモノナルカ故ニ文明國ハ自國臣民カ是等ノ地ヲ旅行スルモノヲ保護スル爲メニ其犯罪ヲ罰スルハ必要ナルモノトス例之沙漠及未開ノ國ハ猶ホ大洋ニ等シク何國ノ管轄ニモ屬セサルカ如キモノナルカ故ニ文明國ノ法律ハ自國臣民ニ伴隨シテ此等ノ地ニ行ハル、モノナリトス英國習慣法カ犯罪ノ地ヲ以テ一ニ管轄權ヲ有スルモノトナスノ規則ヲ維持スル所以ノモノハ外國政府ヲ敬視スルヨリ生スルナリ其故何トナレハ英人佛國ニ行クモノアランカ英ハ佛ヲ尊敬スルノ餘佛國法律ハ生命財産ヲ保護スルニ足ルモノト考フルヨリ外國ニ在留スル自國臣民ノ生命財産ハ一々其國法律ノ保護ニ任シテ願ミサルナリ故ニ今日文明國ノ政府ハ相互ニ

米國ノ制

信シテ苟モ文明國タル以上ハ敢テ不取締ノ事ナク英米佛獨等皆ナ其領内ノ犯罪ヲ速カニ罰スレハ特更ニ自國ノ法律ヲ以テ之ニ關スルノ必要ナシ則チ英國ニテハ治安ニ關スル非常ノ犯罪ノ外敢テ之ヲ罰セサルヲ以テ普通法ノ原則トセリ乍併野蠻國ニハ此原則ヲ適用スヘカラサルモノトセリ

米國ニ於テハ一千八百六十年六月二十二日ノ條令ヲ以テ總テ未開國ニ在ル米人ハ本國ノ法律ヲ以テ支配スヘキモノトセリ即チ支那日本サイアムトルコトリポリチュニスモローツコマスカットノ諸國ニ於テハ自國ノ領事並ニ商業上ノ代理者ハ自國臣民ノ犯罪ヲ罰ス而シテ右ノ諸國ノ外ニシテ各國ト未タ締盟ノ條約アラサル未開國ナレハ此亦タ自國ノ法律ヲ以テ自國臣民ノ犯罪ヲ罰スルモノトス然レモ茲ニ注意スヘキコトハ其管轄權ハ合衆國民ニ限ルモノナリトス「パール」民ノ説ニ依レ

外國ノ國事犯

ハ此點ニ於テハ獨逸並ニ佛國ノ法律モ皆ナ米國法ト同一ナリ併シ之ニ付キ取捨スヘキハ本國ノ法律ヲ其儘ニ行フヲ得ス即チ其刑ノ執行ニ付キ文明國ニシテ行ハル、モ敢テ野蠻國ニ行ハレサル處ノモノヲ以テ之ヲ罰スルヲ得サルナリ

第三節 外國ニ於テ犯シタル國事犯

政府ニ對スル所ノ犯罪ニ關シテハ其主權ヲ外國ニ及ホスヲ以テ主義トセリ米國ニ於テハジョンアダムスノ時代ニ於テ極度迄行ハレタリ一千七百九十八年ニ於テヒラデルヒヤ州ノ人口一ガナル者合衆國政府ノ命令ヲ待タズシテ自ラ米國ノ使ナリトシ佛國政府ニ行キテ將ニ開戰セントスル佛國政府ヲ宥メントセリ此ローガナル者ハザツフワルリンノ門閥ニシテ其人ノ行爲ハ當時米國ノ施政上ニ大ナル變動ヲ及ホセリ之カタメ米國政府ハ千七百九十九年ニ條例ヲ發シタリ其文ニ曰ク

米國ノ制

國際私法

合衆國民ハ合衆國ニ住スルト外國ニ住スルトヲ問ハス合衆國政府ノ許可ナク間接又ハ直接ニ外國政府ト往復ヲ爲シ外國政府ノ政署ヲ左右セントシ又ハ合衆國ニ對スル處ノ外國政府ノ處置ヲ左右スル處ノ目的ヲ以テ外國ニ使シ又ハ通信往復ヲ爲シタルモノハ五千「ドル」以下ノ罰金ニ處シ六ヶ月以上三年以下ノ禁錮ニ處スヘシ

此條例ハ現今猶ホ條例中ニ存在ス而シテ合衆國國會カ萬國公法ニ對スル處ノ犯罪ヲ定メ之レヲ罰スルノ權力アルコトハ合衆國政府ノ公認スル處ニシテ其國民カ外國ニ於テ犯シタル國事犯ヲ罰スルノ權アルコトヲ明示シタルモノト云ハサルヘカラス又英國刑法ニ依レハブラッグストーン氏ノ時代ヨリ總テ英國政府ニ對スル處ノ國事犯ハ若シ英國臣民カ之ヲ犯シタルハ其被告ハ何レノ地ニ住スルヲ問ハス皆之ヲ罰ス歐洲大陸ノ法律

英國ノ制

米國ノ外人ニ對スル裁判權

亦々皆ナ同一轍ニ出ルカ如シ
夫レ斯ノ如ク海外ノ國事犯ヲ罰スルハ被害國政府ノ何レナルヲ問ハス凡テ其權力ヲ有スレトシ之ヲ罰スルノ權ハ獨リ被害國政府ノミナラス犯罪ノ地ノ政府モ亦々之ヲ罰スルノ權ヲ有スルナリ即チ米國人民カ米國政府ニ對スル犯罪ヲ佛國ニ於テ犯シタル場合ニ於テハ米國政府ハ之ヲ罰スルコトヲ得ルノミナラス佛國政府ニ於テモ之ヲ罰スルコトヲ得ルモノナリトス
合衆國ハ外國人ト雖モ其領事ノ前ニ於テ僞證及ヒ詐欺ノミナラス一國政府ニ對スル犯罪ト雖モ猶ホ之レヲ罰スルコトヲ得勿論此場合ニ於テ之レヲ罰スルハ犯罪アリタル後被害者タル政府ノ爲メニ其政府ノ管轄内ニ於テ逮捕スルヲ必要トス而シテ若シ逮捕セラレタルトキハ犯罪者ハ本國政府ノ命令ニ依リテ爲シタルコトヲ辨解スルヲ得ヘシ此場合ニ於テハ其犯罪者

責ヲ免カレ命令者タル政府其責ヲ負ハサル可カラス此事ハ英
 米ニ於テハ分明ナラサルモ普魯西刑法ニ於テ斯ノ如ク定メタ
 リ
 右ノ如ク外國人ヲ罰シ得ルトナスハ如何ナル刑名ヲ以テ之
 ナ罰スルヤノ問題ヲ生スヘシ此場合ニ於テハ被害ノ政府ハ自
 巳ノ臣民カ犯シタル國事犯ト同様ノ刑ヲ科スルヲ得ヘシ故ニ
 被害政府ハ自國臣民カ外國政府ニ對シテ國事犯ヲ企テタル者
 ニ科スルト同一ノ刑ヲ以テセサルヘカラス是レバール氏ノ説
 ク處ノモノニシテ尤モ公平ナル者ト云フヘシ何トナレハ國事
 犯ハ自國臣民カ企テタルト外國人民カ企タルトニ於テ其情實
 非常ノ輕重ナケレハナリ合衆國ノ法律ニ依レハ公使館並ニ領
 事館ノ役員ハ證人ニ宣誓ヲ命シ公證人ノ義務ヲ負ハシムルコ
 トヲ得而シテ右等役員ノ面前ニ於テ犯シタル僞證又ハ教唆ハ

殺人罪

英國ノ制

外國ニ於テ犯シタル場合ト雖モ總テ合衆國ニ於テ犯シタルモ
 ノト同一ニ取扱ヒ其被告人ハ內國人タルト外國人タルトヲ問
 ハス同一ノ刑ヲ科スルモノトス獨并ニ佛ニ於ケルモ此點ニ於
 テハ米國ト異ナルハシ

第四節 殺人罪

英法ニ依レハ英國人カ外國ニ於テ犯シタル處ノ殺人罪ハ英國
 裁判所ニ於テ之レヲ管轄スルコトヲ得即チ之レヲ言ヒ換レハ
 犯罪地ハ外國政府ノ管轄内ナリト雖モ其被告人英國人ナルハ
 ハ英國裁判所ハ尙ホ之レヲ罰ス之レニ反シテ被害者ハ英人タ
 リト雖モ被告人外國人ナル場合ニ於テハ英國裁判所ハ之レヲ
 罰スルコトヲ得サルモノニシテ其犯罪タル英國内ノ犯罪ト雖
 モ尙ホ同一ナリトス又或ル場合ニ於テハ外國ニ於テ犯罪構成
 ナ全クシテ而シテ内國ニ於テ其結果ヲ表ハス場合アリ例ハ

國事犯

日本ノ金銀貨ヲ佛國ニテ偽造シ之レテ日本ニ輸入セシ場合ニハ犯罪地ハ佛國ナレトモ犯罪ノ爲メニ害ヲ蒙リタルハ日本國ナリ斯ク一國政府若シクハ一國社會カ被害者タルヘキ犯罪ハ如何犯罪ハ犯罪ノ地ニ限リテ之レヲ管轄スヘシトノ原則ヲ主張スル所ノ論者モ尙ホ其犯罪ハ被害國ニ於テ罰スルコトヲ得ルモノトセリ

又國事犯ノ如キハ外國ニ於テ犯シタル場合ナリト雖モ被害者タル政府ハ必ス之レヲ罰セサル可ラス何トナレハ現今何國ノ政府ト雖モ國事犯ニ限リ之レヲ保護スルカ爲メナリ即チ日本人民カ日本政府ニ對シテ國事ニ關スル罪ヲ犯シ米國ニ走ルカ如キ場合ニ於テハ米政府ハ必ス之ヲ保護シ敢テ犯罪者ヲ日本政府ニ引渡サ、ルナリ故ニ國事犯ニ在テハ若シ自國ノ臣民外國ニ於テ之ヲ爲シタル時ハ遂ニ之レヲ罰スルコトヲ得サルノ結

犯罪ハ犯罪ノ管轄ニ屬スルノ例外

果チ生スルニ至ラン故ニカ、ル犯罪ハ犯罪地ノ何レニアルヲ問ハス本國政府之レヲ罰スルモノト爲サ、レハ不都合ナリトス

以上述ヘタル所ノ例ニ依テ見レハ内國ノ犯罪ニ於ケル管轄ヲ定ムルハ兎モ角外國ニ於テ爲シタル犯罪ニ於テハ犯罪地外ハ之レヲ罰スルノ權ナシトノ原則ハ到底行ハレサルモノト云ハサル可ラス故ニ英國ニ於テハ犯罪ハ犯罪地ニ於テ罰セラルヘシトノ原則ハ頗ル其範圍ノ廣汎ナルニモ拘ハラス夙ニ其原則ニ例外ヲ生セリ今一二ノ例ヲ舉ケンニ河海カ甲乙及ヒ其他數ヶ國ニ跨ルニ於テハ甲國ニ於テ其河ニ毒ヲ流セハ乙丙ノ國モ亦タ從テ其害ヲ被ラサルヲ得ス然レモ乙丙ノ國ハ其爲害者即チ毒ヲ流シタルモノヲ罰スルヲ得サルヤト云フニ決シテ然ラス乙丙ノ國ハ尙能ク之レヲ罰スルコトヲ得ルモノトス又甲乙ヲ接シタル場合ニ於テ甲國ノ者發砲シテ乙國ノ人ヲ銃殺セハ

甲國乙國共ニ之レヲ罰スルノ權ヲ有ス又身軀ハ甲國ニアリナ
ガヲ人ヲ使役シ又ハ其他ノ手段ヲ以テ乙國ニ在ルモノニ對シ
テ詐欺取財ノ犯罪ヲ行フカ如キハ敢テ難キニ非ス故ニ斯ノ如
キ犯罪ハ犯罪地以外ノ政府ト雖モ皆ナ之レヲ罰セサル可ラサ
ルナリ

第二章 管轄ハ犯罪人逮捕ノ地ニ屬スルノ説

犯罪ノ管轄ハ
逮捕地ニ屬ス
ルト云フノ説
例外

以上述ヘタル所ニヨレハ犯罪地カ專ラ犯罪ヲ管轄スト云フノ
議論ハ到底維持スルコト能ハサルモノト云ハサルヘカラス故
ニ第二ニ説クヘキ犯罪ハ犯罪ノ地ニ於テ罰セラルト同時ニ
逮捕ノ地ニ於テモ尙ホ之ヲ罰スルコトヲ得ト云フノ原則ヲ研
究セントス此原則ハ前ノ原則ニ比スレハ稍々穩當ナリト雖モ
多少ノ例外ナキニアラス第一ニ犯罪ハ外國ニ於テ犯サレタル

大陸諸國ノ主
義

モ其被告タル逮捕地ノ政府ニ服従スルモノ即チ之レヲ言ヒ換
レハ外國ニ於テ犯シタル犯罪ト雖モ若シ其犯罪人自國人民ニ
シテ且ツ自國法律ニ於テ罰スヘキモノタル時ハ之レヲ處罰ス
ルコトヲ得ヘシ例ヘハ日本人カ支那國ニ於テ或罪ヲ犯ストセ
ンニ其罪タルヤ支那法ニ於テ罪トナルモ若シ如此犯罪ハ日本
法律ニ於テ處罰セサル時ハ敢テ之レヲ罰スルコトヲ得サルナ
リ
或ル學者ハ以上ノ原則ヲ解説シテ曰ク自國ノ臣民ハ外國ニア
リト雖モ苟クモ自國ノ政府ヲ奉戴スル以上ハ其罪ヲ罰ス之レ
ヲ詳言スレハ犯罪者カ他國ニ於テ罪ヲ犯シ而シテ本國政府ニ
逮捕セラレタル時ハ即チ其本國政府ヲ奉戴スルモノナルカ故
ニ罰セラル、モノトス即チ奉戴ト云フ事柄カ刑罰ヲ受クルト
云フ理由トナルモノナリト然レモ此理由タル甚タ不完全ナル

モノニシテ政府ヲ奉戴スルノ一事ハ敢テ刑罰ヲ受クルノ理由
タラサルナリ何トナレハ今日ノ文明政府ハ常ニ外國人ヲ處罰
ス然レモ其外國人タル敢テ其國ノ政府ヲ戴クモノニ限ラサル
ナリ之レヲ要スルニ逮捕ノ地ニ於テ其國ノ法ニ反スルノ所爲
ヲ罰スルハ其理由他ナシ唯タ犯罪ヲ預防シ治安ヲ維持スルノ
目的ニ外ナラズ

犯罪人ヲ逮捕
地ノ管轄ニ屬
セシムルハ被
告ノ保護ト云
フ説

英米二國ノ制
限

茲ニ逮捕ノ地ヲ以テ犯罪ヲ罰スルノ理由トナス他ノ一説ハ被
害者ヲ保護シ被害者ノ辨護ヲ得セシムルニ必要ナルカ故ナリ
即チ逮捕ノ地ニ於テ犯罪ヲ罰スルハ被害者ヲ保護シ之レカ辨
償ヲ得セシムルニ便ナルヨリ生スト云フニアリ
以上ノ事柄ハ凡テ歐洲大陸ノ法理主義ナリ併シナカラ英米二
國ニ於テハ尙ホ一ノ制限ヲ必要トセリ即チ犯罪人ヲ逮捕シタ
ル時ニ之レヲ罰スルモ其犯罪ノ性質タル犯罪者逮捕ノ地ノ政

府ニ對スルノ犯罪ニ非サレハ之レヲ罰セス言ヲ換ヘテ之ヲ言
ハハ外國ノ犯罪ハ被告人ヲ英米兩國ニ於テ逮捕スルモ其犯罪
タルハ逮捕ノ地ノ政府ニ對スル罪ニ非サル以上ハ之レヲ罰セ
サルナリ

以上ニ述ヘタル原則ト雖モ若シ犯罪カ野蠻國ニ於テ犯サレタ
ル場合ニ於テハ總テ之レヲ罰スルモノトス而シテ單ニ政府ニ
對スル罪ノミナラス殺人罪其他二三ノ重大ナル罪ハ又タ之レ
ヲ罰スルモノトス

上來説ク所ハ犯罪ハ犯罪地ニ於テ之レヲ管轄スト云ヘル原則
及ヒ其他罪カ逮捕地ノ法律ヲ犯シタルモノニ係ル時ハ逮捕地
ニ於テモ亦タ之レヲ管轄ストノ原則ニ附帶シテ種々講説スル
所ノモノナルモ右等ハ刑事上ノ管轄ヲ定ムル一種ノ議論トシ
テ見ルヘキモノニシテ到底何レノ場合ニモ適用シ得ヘキモノ

外國人ノ自國ニテ犯罪シ其地ニテ逮捕セラルル時

ト云フベカラス去レハ犯罪ニ關シ種々ノ區別ヲ立テ格段ナル場合ニ適用スヘキ法理ヲ講究スルヲ要ス是ヨリ以下是點ニ付キ究明スル所アラントス

第一節 犯罪カ外國人ニ依テ犯サレ而シテ犯罪ノ場所カ逮捕ノ地ナル時

諸學者カ唱道スル所ノ説ニ據レハ逮捕地カ犯罪地ト同一ナル場合ニ於テハ其ノ逮捕地カ刑事上ノ管轄權ヲ有スト云フニ在リ而シテ茲ニ一ノ疑訝ヲ存スル場合ナキニ非ス即チ外國人カ假リニ或國ニ住居セル時ニ國事ニ關スル罪ヲ犯シタル場合ニハ如何ニ處斷シ得ルヤ此點ニ就テハ學者間種々ノ説アルニモ拘ハラスヘル子ト氏カ獨逸法律ヲ註釋シタル言ニ依レハ最モ明瞭ナルノ説ヲ徵スルコトヲ得ヘシ即チ氏ノ説ニ依レハ何人ヲ問ハズ我國境ニ入ル時ハ我法律ニ從フヘキハ當然ノ

ヘルネー氏ノ説

我國境ニ入ル者ハ我法律ニ從フベシ

至理ナリトス茲ニ種々ノ犯罪ニ付キ該原則ヲ動カスヘカヲサルモノトナス時ハ國事犯ノ如キ社會ノ基礎ヲ害スル所ノ重大ナル犯罪ニ對シテ適用セラルハ論ヲ要セサルナリト此見解ニ依レハ普通法並ニ其他聯邦ノ法律ハ内外國人ヲ問ハス凡テ他ノ犯罪ハ勿論國事犯ニ對シテモ管轄シ得ヘキモノトセリ

英國習慣法ニ依ルモゾラックストーン氏ノ説ニ從ヘハ内外國人ヲ問ハス我王國ニ在ル限リハ我王國ノ保護ヲ受クルモノナルカ故ニ其刑事管轄ニ屬スルハ當然ナリト云ヘリ

千七百五十五年米國費府巡廻裁判所ニ於テ起リタル事件ニシテ被告キ子トハ費府港ニ於テ戰艦ヲ機裝シ當時其本國ト戰爭中ナル英國ニ向テ出發センコトヲ企テタリ而シテ此際合衆國ハ英國ト平和ヲ保持シ交戦中ニアラサリシナリ此事實ニ於テキ

子トカ求刑セラレル時自分ハ佛國人ニシテ且ツ佛國共和政府
ノ爲メニ其敵國ナル英國政府ニ反對スルモノナリト答辨セシ
ト雖モ合衆國政府ハ其答辨ヲ以テ無効トセリ何トナレハ假令
佛國人タリト雖トモ合衆國領内ニアル以上ハ合衆國ノ法律ニ
據リ合衆國ノ刑事裁判所ニ依リテ罰セラルベキモノト判決セ
リ

外國人外國ニ
於テ我國ノ爲
ニ罪ヲ犯セル
時

第二節 外國人カ外國ニ於テ罪ヲ犯シタル時

既ニ論シタル如ク甲國ノ人カ乙ノ國ニ對シテ犯シタル處ノ犯
罪ニシテ其犯地カ丙國ノ領内ニアル時ハ此犯罪ヲ罰スルコト
ヲ得サルモノトハ今日已ニ定論タル所ナリ然レモ外國ニ於テ
犯シタル犯罪ト雖モ即チ換言スレハ犯罪ノ地ハ外國ニアルモ
自己ノ主權ニ對シテ犯シタル罪ハ固ヨリ之レヲ罰スルコトヲ
得ヘシトハ亦已ニ論シタル所ナリトス

外國ノ犯罪人
ニテモ自國ニ
來レバ之ヲ罰
スルヲ得

欠

MISSING

ノニシテ其所在地ノ法律ニ從ツテ之レヲ支配シ移轉的ノ訴訟トハ犯罪又ハ動産ニ關スル訴訟ノ如ク一定セサルモノナルカ故ニ訴訟事件起生地ノ法律ヲ以テ其裁判ノ管轄ヲ定ムルナリ故ニ不動産ニ關スル法律ハ所在地ノ法律ヲ以テ其當否ヲ決シ移轉的ノ場合ニハ何國ノ裁判所ニ於テモ原告人ノ望ニ任セ裁判スルコトヲ得ルヲ以テ英國ノ原則トス尤モ被告人ガ現ニ居住スト云フノ條件ヲ必要トスルハ論ヲ待タサル所ナリ

第三章 囑托ヲ以テ證據ヲ採集スルコト

外國ニ托シテ證據ヲ採集スルコトハ總テ訴訟手續ヲ爲ス所ノモノニ依リ採集セサル可ラズ例ヘハ日本ニ於テ訴訟起リ其訴訟ニ關シ英國ニ居住スル者ヨリ證據ヲ得ンコトヲ要スル場合ニ於テハ其證人ヲ英國ヨリ呼出スコトヲ得サルカ故ニ英國ニ

外國ニ托シテ
證據ノ採集

在留スルモノニ托シテ證據ヲ採集スルコトアリ近來マテハ英國及ヒ合衆國ノ習慣ハ凡テ證據ヲ得ントスル國ニ在ル人ニ委任狀ヲ渡シ以テ探證セシメタリ勿論此等ノ人ハ司法官吏タルニ非サルナリ又或ル時ハ證據ヲ得ントスル國ノ代言人若クハ公使ニ委任シ來レリ此場合ニ於テハ何レモ委託セラレタル人ハ司法官吏ノ有スル特權即チ僞證ヲ罰シ呼出ヲ執行スルコトヲ得サルモノトス歐洲大陸ノ法律ハ英法ヨリ稍々寛ニシテ即チ各裁判所ニ囑托シテ相互ニ證據ヲ採集スル者トス此場合ニ於テ囑托ヲ受タル裁判官ハ自國ノ法律ニ依テ採集スヘキコト論ヲ待タス千八百六十六年英國ノ遺囑及ヒ離婚裁判所ニ於テ佛國ノ或ル商人ノ呼出ヲ必要トセリ故ニ其事實ヲ記載シ佛國裁判所ニ囑托セシニ同裁判所ノ判事ハ其訊問ヲ自己ノ認ムル便宜ト方法トニ從ヒ聞質シタルナリ此場合ニ於テ其證言ハ固

ヨリ裁判所ニ於テ證言トシテ許サレタリ然レトモ是唯タ證言トシテ許サレタルマデニシテ其證人タルノ能力アリヤ又其證言ハ眞ヲ措クニ足ルカ或ハ相當ノ方法ヲ以テ探證セシヤ否ヤハ其囑托ヲ爲シタル國ノ裁判所ニ依リテ之レヲ決セリ歐洲大陸諸國ニ於テハ各相互ニ條約アリテ自己ノ民臣ト雖モ外國裁判所ニ於テ證人タラサル可ラサルノ義務ヲ負ハシメリ尤モ遠隔ノ地ナルトキハ之レヲ拒ムコトヲ得ル場合アリ又證人タルノ權利ヲ妨ケラル、ノ恐レアルトキハ其請求ニ應セサルモ可ナル場合アリ若シ證人タル者囑托ヲ受タル裁判所ニ於テ訊問セラル、場合ハ自國ノ法律ニ於テ答辨ノ責ナキ者ハ假令ヒ訊問ヲ受ケタル裁判所々在地ノ法律ニ於テ答辨スルノ責任アル事柄タリト雖モ之レヲ答辨スルニ及ハサルナリ

第四章 對手人

原告ノ外國人
タル者

訴訟原告人ノ外國人ナル場合
 訴訟原告人カ外國人ナリト雖モ之レカ爲メ内國人ヲ被告トシ
 テ訴訟ヲ提起スルノ妨ケトナラサルモノトスルヲ以テ一般ノ
 原則トス又其訴訟ノ事柄外國ニ於テ起リタル場合ト雖モ猶ホ
 同一ナリトハ英米法律ノ規定スル所ナリ然レモ佛國及ヒ其他
 ノ國ニ於テ外國人カ訴訟ヲ起スニハ豫メ訴訟入費及ヒ損害ニ
 對スル保證ヲ立ツルコトヲ必要トセリ蓋シ外國人カ濫リニ訴
 訟ヲ起シテ敗訴シタルトキハ内國人ノ爲メニ訴訟入費ヲ辨償
 スルコト能ハサルノ憂ヲ慮リタルモノナルヘキモ英國ニ於テ
 ハ斯ノ如キ法律ノ規定アルコトナシ而シテ佛國法ニヨレハ左
 ノ場合ニ於テ外國ノ訴訟人ト雖モ豫メ訴訟入費ノ保證ヲ立ツ
 ルニ及ハサルモノトセリ

佛國及其他ノ
 國ニ於テ外國
 人カ起訴スル
 ニ要スル條件
 外國人ニテモ
 訴訟入費ノ保
 證ヲ要セサル
 場合

第一 商業ニ關スル訴訟

第二 訴訟人佛國ニ於テ訴訟入費ヲ償フニ足ルヘキ價額アル
不動産ヲ有スルトキ

第三 條約ニヨリテ取除キタル場合(佛民法第十六條第六十六
條第四百二十五條)

第四 訴訟人裁判所ノ指揮ニヨリテ事ヲ行フトキ

以上述べタル所ノ法律ハ被告人佛人タルノ場合ヲ指シタルモ
 ノニシテ若シ被告人佛國ニ住居ヲ有セサル外國人ナルトキハ始
 メヨリ原告ニ於テ訴訟入費ノ保證ヲ立ツルニ及ハサルモノト
 ス尤モツマンデー并ニホツセー氏ノ如キ學者ハ以上ノ區別ヲ
 立ツルハ甚ダ不正ナリト論セリ
 以上論シタル所ハ原告人カ外國人タル場合ヲ云フモノニシテ
 被告人ニ於テ相殺ヲ要求シ又ハ反求ヲ爲スト雖ドモ之レカ爲

被告人ノ外國人タル場合

メ原告ノ位地ニ代ハルモノト見做サ、ルナリ
 被告人ノ外國人タル場合
 對人權ノ訴訟ニ於テ被告人外國人ナリト雖モ召喚狀ヲ送達シ得ル場合ニ於テハ英國裁判所ニ訴フルコトヲ得ヘシ而シテ訴訟ノ原因カ外國ニ起リタル場合ト雖モ尙ホ同一ナリトス或ル學者ノ說ニヨレハ被告人ヲ英國裁判所ニ訴フルニハ被告人ニ於テ其裁判管轄内ニ住居ヲ有スルコトヲ必要トスト云ヘリ然レモ爰ニ謂フ所ノ住居トハ曾テ論シタルカ如キ完全無缺ノ住居ヲ指スニ非スシテ一時寄留シタル場合モ亦タ此ノ中ニ包含スルモノトス之レヲ詳言スレハ被告人或ル場所ニ在住シテ召喚狀ヲ送達スルヲ得ル場合ニハ充分住居アルモノトス被告人外國人ニシテ訴訟ヲ免カレンカ爲メ管轄地ヲ逃走セントスルノ證據アルトキハ合衆國多クノ州其他佛國ニ於テモ被告人ヲ

原被双方外人ナル時

逮捕スルコトヲ許セリ又英國ノ或ル訴訟事件ニ於テ外國人カ外國人ヲ訴ヘタル場合ニ於テ右ト同一ノ事件アルトキハ之レヲ差押フルコトヲ許シタリ
 訴訟人雙方トモ外國人ナル場合
 獨逸英吉利及ヒ合衆國ノ法律ニヨレハ若シ訴訟人ノ雙方内國人ナル場合ニ於テ管轄ヲ有スル裁判所ハ訴訟人雙方共外國人ナルトキト雖モ猶ホ管轄ヲ有スヘキ者ニシテ其訴訟ノ原因タル外國ニ起リタル者ナリト雖モ亦タ同一ナリトス然ルニ千八百二十八年ニユール州上等裁判所ノ判決ニヨレハ若シ訴訟ノ原因カ外國ニ起リタル場合ニ於テ原被雙方トモニ合衆國ニ假住居ヲ有セサル外國人ナルトキハ特別ノ原因アルニ非サレハ合衆國裁判所ハ管轄權ヲ有セスト云ヘリ佛國ニ於テハ右等ノ場合ニ對シ被告人ニ於テ故障ヲ述ルコトヲ得ルモノトシ

若シ被告人ニ於テ故障ヲ述ヘタルトキハ其裁判所ハ管轄權ヲ有セサルモ此ノ故障ノ權ハ被告人ノ特權ナルカ故ニ亦タ放棄スルコトヲ得ヘシ若シ又被告人カ故障ヲ述ヘスシテ其裁判ヲ受クルコトヲ承諾シタルトキハ裁判所ハ自ラ其管轄權ヲシテ裁判セサルヲ得サルモノトス佛法第百六十八條然レモ右ノ原則ハ實際ニ甚タ不便ヲ感スルヲ以テ多クノ例外ヲ設ケタリ即チ其二三ヲ舉ケレハ即チ左ノ如シ

- 第一 佛國ニ在ル所ノ動産ニ關シ占有ノ訴訟ヲ起シタル場合
- 第二 佛國ニ於テ支拂ハルヘキ金錢ニ關スル訴訟
- 第三 商業ニ關スル訴訟
- 第四 相續ノ訴訟ニ於テ在佛國ノ不動産カ相續ノ問題トナリタルトキ
- 第五 佛國ニ於テ蒙リタル損害要償ニ關スル訴訟

第五章 訴訟ノ式及ヒ訴訟手續

何等ノ事柄ニ拘ハラズ訴訟式及ヒ訴訟手續ハ訴訟ヲ提起スル所ノ裁判所ノ法律規則ニ從フヘキモノナルコトハ曾テ論述シタル所ナリ而シテ捺印證書トハ如何ナルモノカ又ハ如何ナルモノヲ以テ捺印ト爲スカト云フカ如キハ訴訟地ノ裁判所ノ法律規則ニ從ハサル可ラス又外國ノ法律ヲ採用スルコトアリト雖モ其自國ノ訴訟手續ニ反對ナル救濟ヲ與フルコトヲ得ス然リ而シテ時ニ或ハ手續法ノ問題ナリヤ又ハ主法上ノ問題ナリヤヲ決スルニ甚タ困難ナル場合ヲ生スルコトアリ而シテ主法又ハ手續法ノ孰レニ屬スルカノ問題ハ訴訟地ノ法律ニヨリテ決定スヘキモノナリト雖モ可成的權利ヲ消滅シ去ランヨリハ寧ロ之ヲ成立セシムルノ解釋ヲ用キルヲ以テ穩當トス

第六章 代理人及ヒ代人

訴訟人カ自身ニ出庭スヘキモノナルカ又ハ代理人若クハ代人ヲ用ユヘキモノナルカ又或ハ如何ナル制限如何ナル範圍内ニ於テ代人ヲ用ヰルコトヲ得ルヤハ凡テ訴訟地ノ裁判所ノ訴訟手續ニ據ルヘキモノトス

第七章 證據

證據法ハ手續法ノ一種ナルカ故ニ訴訟地ノ裁判所ノ規則ニヨリテ處分スヘキモノナリト一刀兩斷ノ論決ヲ爲サハ甚々容易ノ業ナル如キモ或ル部分ニ付キテハ靜思瞑黙精密ナル考案ヲ要スルノ點ナキニ非ス今例ヲ以テ其困難ナル場合ヲ示サンニ獨逸ニ在留スル米人カ或ル商店ニ到リ貨物ヲ買取リタリトセシニ其商店ノ主人ハ地方ノ習慣ニ從ヒ賣買證書其他ノ證據書

國際私法
上ノ困難

甲國ニ有効ノ
證據モ乙國ニ
無効ナルトア
リ

類ヲ作爲スルコトナク唯タ自己ノ帳簿ニ物品ヲ賣却シタル旨ヲ記入シテ買主ニ對スル充分ナル證據ト爲セリ而シテ當地方ノ習慣タル相當ニ其事柄ヲ帳簿ニ記入スルトキハ確實ナル證據ト認ムルナリ

斯カル證據物ハ其地方裁判所ニ於テハ有効ノ證據ナルコト疑ナシト雖モ合衆國ニテハ更ニ何等ノ効力ヲモ有セサルモノトス是等ノ例ニ對スルサビクニ一氏ノ說ハ訴訟ノ原因タルヤ其地方ニ於テ有効ナル證據物件ナルヲ以テ他ノ地方ニ於テモ尙ホ有効ナリトスル時ハ必ス弊害アリト之レニ反シテ獨逸國ニ在留スル二人ノ米國人ノ間ニ契約ヲ爲シ其契約ノ方法ノ獨逸國ノ法律ニ適合セサルノ故ヲ以テ之レヲ合衆國ニ於テ舉證スルコトヲ許サストセハ是亦甚々穩當ヲ失シタルモノト云ハサルヲ得スト而シテヒルモール氏ハロッエー氏ノ說ヲ襲用セ

ロツエー氏ノ
證據ノ二種類

リ今同氏ノ説ヲ見ルニ證據ヲ二種類ニ區別セリ即チ左ノ如シ
 第一證據ノ許スヘキコト許ス可ラサルコト又ハ口頭ヲ以テ
 證明スルコトヲ得ル事柄ト證書面ニ非ザレハ其證明ヲ許ス
 ヘカテサル事柄トハ訴訟ノ判決ニ於テ必要下スル場合
 第二證據ヲ提出スルニハ如何ナル方法ヲ以テスヘキカ又如
 何ナル順序ニ從フテ提出スヘキカ其他證據ノ許否及ヒ有効
 無効ニ關スル問題

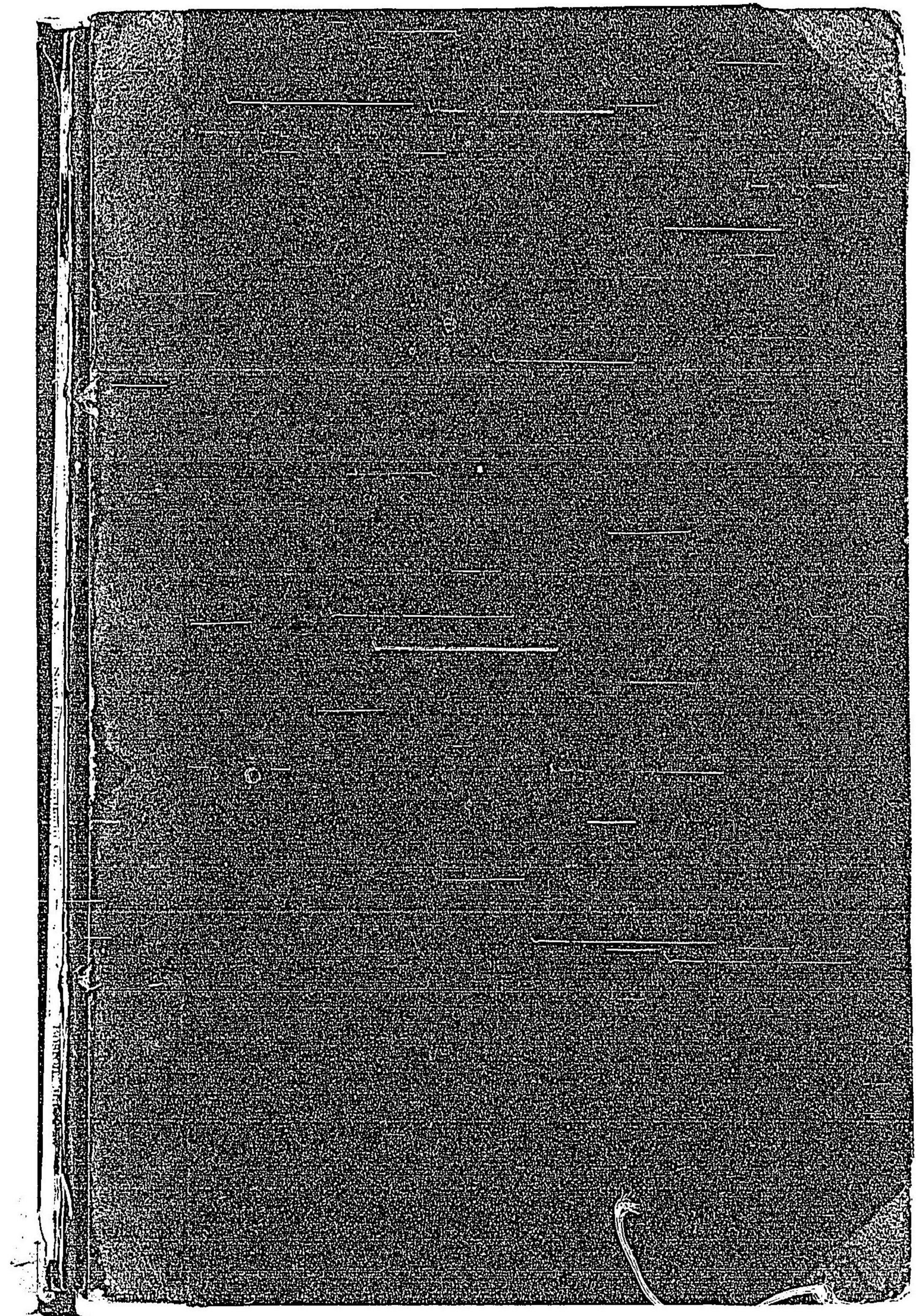
右第一種ノ證據ハ訴訟原因ノ地ニ於テ現ニ得タル權利ナルト
 キハ訴訟地ノ法律ニ於テ之レヲ左右スルヲ得サル者トス
 第二種ノ證據ハ訴訟地ノ法律ニヨリ之ヲ決定スヘキ者トスト

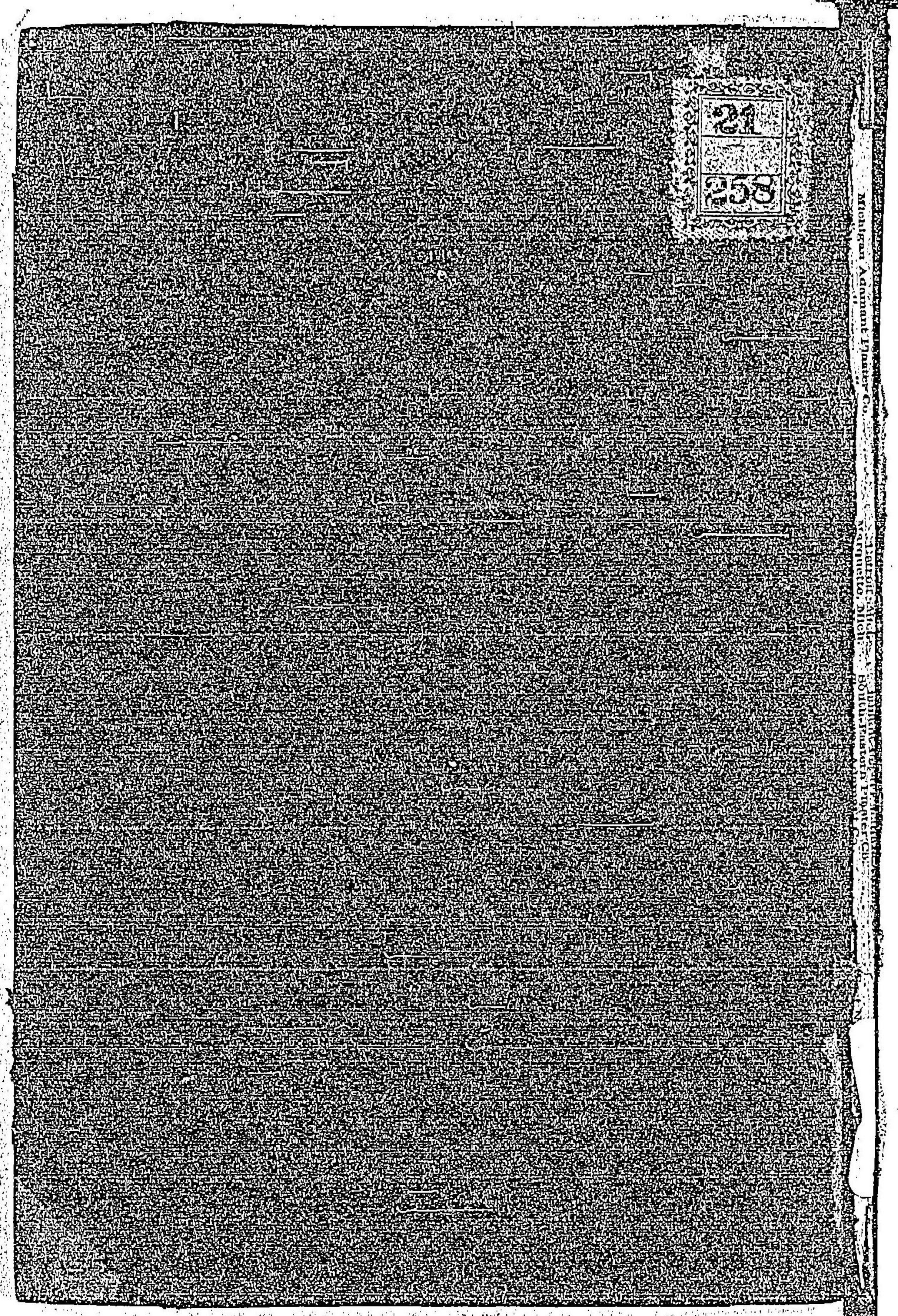
國際私法終



21

258





21
258

039276-000-5

21-258

国際私法

伊藤 悌治/述

M23.8

BCD-0084



